



れんぎょう (奈良・不遇寺)

もくれん 木蓮
 まだ固い蕾
 美しく伸びやかな姿
 力強く春の息吹を感じさせる
 れんぎょう 蓮翹
 輝くような黄色の花
 強く激しい鮮黄色
 春風になびく
 早春の色彩
 ゆきやなぎ 雪柳
 しだれの枝に小さな白い花
 清楚な花がこぼれ吹く
 ちょっとしゃがんで触れてみる
 ほろほると散る花びら
 すずやかな音を感じさせる



雪柳 (奈良・不遇寺)

Photo essay

春の彩



題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松永 恵一



木蓮 (奈良・秋篠寺)

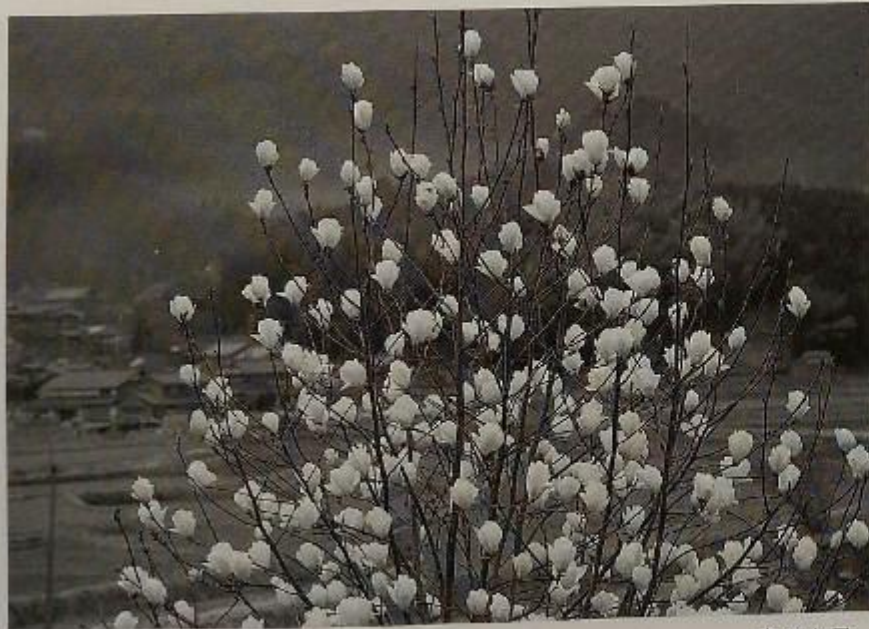
季節の



春の日差し



湖畔の春



春の山里

実景

陽春

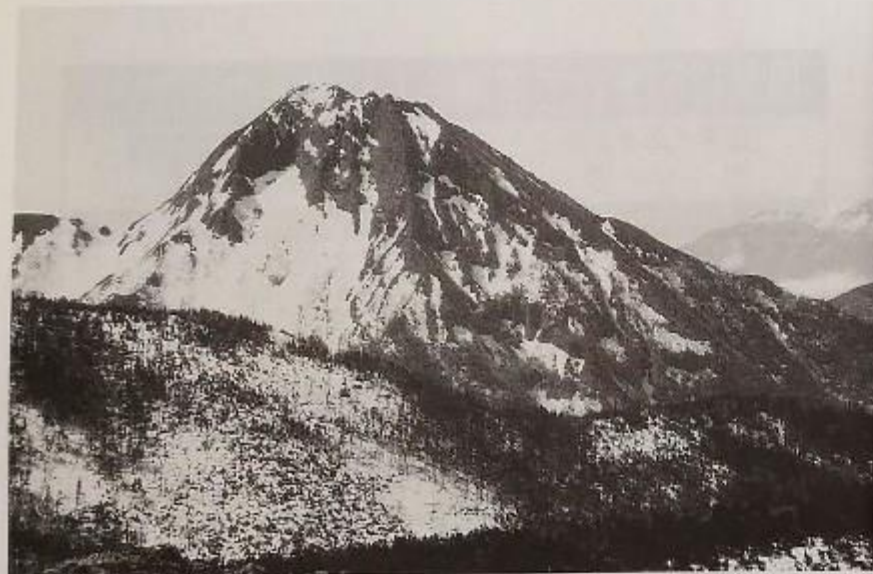
撮影 武市通治



春の朝



春らんまん



残雪の阿弥陀岳（八ヶ岳）

三浦 弘幸



早春・稲村ヶ岳遠望（大峰）

吉田 誠宏



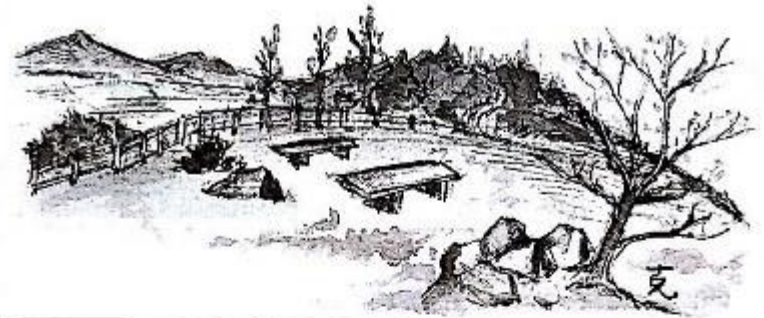
天狗岳（八ヶ岳）

三浦 弘幸



既冬の樹花（野鹿湯山）

尾野 益大



京都北山は甘くない

慶佐次 盛一

昨年の10月下旬、仲間たちと一緒に京都北山の皆山に登った。私にとって二度目、じつに二年ぶりの登頂だった。足尾谷からツボクリ谷を経て登ったコースは、初登の時とは逆コースということもあって、二度目の山とは思えない新鮮さがあった。

相変わらず狭い山頂だが京都府の屋敷峠(ヤシロノト)とあって、福井県からの単独行や数人のハイカーたちが賑わっていた。私も木々の間から垣間見える比良の山々の秋色を楽しみながら、のんびりとくつろいでいた。

そんな時である。仲間が、誰かが救助を求めていると叫ぶ。耳をすますと、東の方から「助けて下さい」という女性の声

が確かに聞こえる。

木に登り方を確かめると、皆山東方の941m付近からのはようである。あんな所にコースはないので、おそろしくどこからか迷い込んだのだろう。地形的にも危険はなく、笛とコールで山頂に誘導する。やがて女性三人の姿が確認できた。私たちのコールに「道が無いんです」とか相い返す。当たり前だと腹が立ったが、西の方角へヤブをこいで進めるところへ誘導する。見かねた仲間が応援に出て、無事三人を山頂に案内した。

驚かすかしように礼を言う三人だが、その表情には明らかに恐怖と疲労があった。遅くなったであろう昼食をとってもらいながら聞くと、皆谷コースをつめて道に迷ったこと、彼女たちの中の一人は途中で道連れになったことが分かった。市販のガイド地図と磁石を持参していたらしいが、使い方も分から

ないという初心者だった。彼女たちの一人が、北山には道標がありませんねと、なじむように言った。

その通り、京都北山には、公の標識が道標を完備して整備された登山道は、ごく一部しかないのが実情なのだ。市販のガイド地図に赤い線で描かれているコースのほとんどが山仕事の道であったり昔の生活の道で、それが登山コースやハイキングコースだと勘違いされているようだ。

時々見かける簡単な道標は、山岳会や個人の奉仕によるものである。したがって道標はもちろせん、山道の整備などは期待しがたい。ガイド地図に赤い線が描かれている道は比較的歩きやすい道を示しているのだが、時には山抜け(崩落地)もある。草が繁茂する夏や、利用する者が少ない所はヤブに覆われて、通過困難となる。また植林の伐



随想 (山のエッセイ)

探水で道が濡れている時もある。まして破線が描かれているコースなどは、初心者は逃げたほうがよい。市販のガイド地図は参考程度にして、縮尺の小さい2万も千分の1地形図も持参すべきであろう。

京都北山は不思議に女性に人気がある。京都北山という言葉が持つ甘い響きと、皆山北山形と竹の美味、その山頂のあでやかなイメージによるところが大きいと思うのだが、実際の北山は頑強な男に、とてもつらい山である。地図ができて、どんなことにも対処できる人でなければ、まず北山を自由に楽しむことはできない。それができない人は経験者に同行するか、山岳会に入会して経験を積んでから北山を歩いていただきたい。安易に北山に入り、救助を求めてきた人の話を私は何回も聞いています。これでは楽しいはずの北山歩きも、不安と苦しみの印象しか残

らないだろう。さて、くたんの皆山山の女性たちだが、ツボクリ谷を下山するということなので、コースを指示して山頂を別れ、堅田駅で再会した。ところが、下山途中でも道に迷ったそうまで、すっかりしよげ返っていた。

「山には感動がある」ということ

辻 三郎

ピークに「登頂記念」なるプレート類が大団にぶら下がっているのをよく見かける。そしてそれをニガニガしいことと随想やエッセイ・山レポート・紀行文等に書かれているのもよく見る。しかしそれは好みでやっている人達であって、少なくとも我々俗人と称する者はめくじらを立てないでおこうと思う。

それは街で見かける落書きにいちいち腹を立てるようなものではないだろうか。

「一流の山岳会や一流の登山者は決してそのような事はしない……」と自慢しているだけでよいのではないか。せつかく素晴らしい感動を与えてくれる山に登って、気分を悪くする必要はないと思う。登山たる者はそれぐらいのおおらかさが欲しい。

「山には感動がある」と人はよく言う。私も全く同感だ。山は標高や山容で軽々しく評価するものではない。昨年で8000級峰からの大パノラマに恵まれることもあれば、途中でガスや雨に遭い、何のために苦勞して登って来たのか判らないようなこともある。気象情報の当たらないことを嘆いたり、身の不運を悲しむ必要はない。それはそれで良い体験をしたと思えばいい。



随想 (山のエッセイ)

排便したであろう小動物の排泄物を見ることがある。リスかなイタチかな、それとも狸かな、どんな動物なのか……と考えながら歩く。時としてこれらの小動物達と偶然出会う、何と楽しいことではないか。

ヘビやヒル、山クニそれに蜂やクモなど、迷惑千萬な虫や爬虫類とも出会う。でも近頃、日常生活ではなかなか出会えないし、私は彼等と会えただけでも感動する。突然、大鹿が全速力で目の前を駆け切ったこともあった。しばらくの間体の震えが止まらなかった。これ程の感動はめったに体験することが出来ないだろう。

枝から落ちるドカ音が雪崩のように思えたり、彼岸花の群生が真つ赤な池のように見えたり、コスモスの大海原に出会ったり、京都北山では杉花粉が霧のように頭上に降り注いだりと、四季折々の草花や小鳥達に出会い感

動できるのも、山々を彷徨するからこそだと思う。

山に登る目的は人それぞれだと思ふ。頂上を極めるとか、大鹿と満腹したいとか、数を置いて前人未踏の山へ登るとか……でも山に感動がなければ誰も登らないと思ふ。ピークにプレートがぶら下がっていてもないくても、私の山への憧れと興味には何等関係がない。

一流の岳人達よ、おおうかな気持ちで山を楽しんではどうだろう。

前車の轍・他山の石

芝野 康明

山行は常に多少の危険(死の恐怖)と共存する。それだけに無事目標の山頂に到達した時、そこに躍動する「生」を感じる。中高年齢が山行を楽しむ要因もこのあたりにあるのではないだろうか。

遭難事故による死は絶対に回避すべきである。

かつて私の目の前で起こった悲しい事故の一端を伝え、改めて山岳における危険について考えてみよう。

平成3年3月20日、私達のパーティは奥秩父連山の一角にある御徳山(2020m)を目指した。前夜は塩山温泉に宿泊、温泉で体力を培った。

当朝は曇天で、バスで登山口の徳和へ着いた時には車模様となっていた。道端の大きな石の地蔵様に安全を祈願し、出発する。

高度を徐々に従って小雨は霧から突に変わり、地面に薄く積雪を見る辺りから小宮となっていた。しかし寒気はさほどでなく、稜線へ出てからは積雪がかえって歩きやすくしてくれた。

幾つかの岩壁を越え、鎖場に着く。いったんアイゼンを外し、

一段目の鎖場にかかる。上の岩棚は狭く、少し傾斜して、しかも濡れてすべりやすく、手がかりもなかった。きわめて慎重に岩角を回り、二段目の鎖場を登り再びアイゼンを着ける。頂上直下の丸木を並べた橋の上には凍った積雪があり、アイゼンを強く踏むと必ずとけなくなり、困ったが、なんとか頂上に達した。

頂上は奥秩父の山々の特徴である巖々たる岩峰で、後から到着した者は膝を下ろす場もない。烈しい風に曝されて、記念写真を撮る間もなく、井筒も半分ほどで三々に下山の途についた。

往路の難所である鎖場では、危険回避のため鎖に頼らず足場を築き上げた。私の前には三人グループがいた。女性一人は既に下り終わり、次にもう一人の女性が一段目を降り、続いて男性が梯子を敷設降り、私は順番を待って岩上から覗いていた。

一番目についた女性が岩角を曲がり姿が見えなくなるや、突然岩壁に短い叫び声が響き、私の頭の中を真っ白にした。次の瞬間、目前で滑落事故が起こったと知った。

テーフリーダーは遭難者の名前を連呼しながら、滑落地点と思われるブッシュの根を駆け降りて行った。登山道からは全く見えないが、約50m程転落した模様であった。私達中高年者は何の手助けも出来ぬまま、ひとまず少し下の広い所まで下って指示を行うことにした。

若い経験のある何人かが救出に協力することになったらしい。降雪は次第に激しくなり、待機していると寒さが身にこたえるようになった頃、伝令があり、下山して救急隊の出勤を要請することになった。周囲は白い世界に変わり、夕暮れも近づいて不吉な様相を呈してきた。

救急隊や地元消防団員が救出

に出発したのは18時前後であった。20時頃、救急隊よりの指示で私達は予定の宿泊地へ行くことになったが、遭難者への気遣いが空腹を忘れさせた。22時頃、宿泊所にてようやく遅い夕食の席についたが、協力者達が帰着したのは深夜であった。

遭難者は発見当初は意識があったが、救急隊が到着した時点で既に危篤状態で、間もなく亡くなった。わずかな希望を持っていた人達も悲しむ、そして山に向かって合掌し冥福を祈った。

翌日の雪ヶ岳登山は中止になった。麓の公園の深田久弥記念碑の黒御影石に映る山の姿の前で私達は、「絶対に遭難事故を起こさないよう注意を怠りません」と、固く誓った。

「あいの森」から

舟伏山

鷺見守康

美濃

美山町から舟伏山を望む



私の山歩きは40歳からである。30代半ばまでは、山や自然というものにまるで興味がない。30代半ば過ぎて植物や野鳥などに関心を抱き始め、やがてそれらを求めて山に登るようになった。

なぜ、30代の半ばを過ぎてから自然に関心を抱き始めたのか。

ある日突然、世界観が変わったとでも言えはばいいだろうか。人の一生にはコペルニクスの転換を遂げる時がある、と言った人がいたが、そういうものであったのだろうかと自分自身は理解している。

30代は近郊の森を歩き回っていた。美濃地方平野部の森と言えば、シイ、カシの林が本来の植生であるが、限定的な森はす

に伐採され尽くし、ほとんどがアカマツやコナラを主体にした二次林となっている。

これらの林とすいぶん顔馴染みになった頃から、ブナに代表される温帯落葉樹の森への興味が湧き、少しずつ美山山地などの山々にも足を運ぶようになった。そして、次第に山の自然まるごとに関心され始め、ついには日本アルプスの山々へ登るまでになってしまった。

舟伏山は美濃山地南部の山である。石灰岩で形成された山の特徴であるならかな山脈をもち、舟を伏せたような山姿が山名の由来だと言われている。

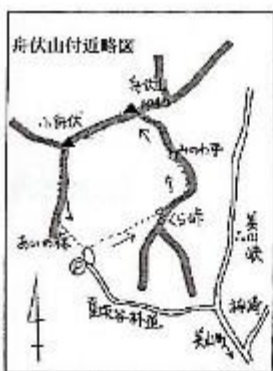
石灰岩が比較的まとまっている山として知られ、平凡社の「日本の自然」シリーズ

山歩きを楽しむことができるし、植物相の豊かさでも決して引けをとらない。題された「花の山」と言えるのではないだろうか。

4月29日、曇天ではあったが、例によつて春の花の季節を歩いた。

舟伏山の登山道は、嘉敷谷出口を起点とした古くからのものと、夏坂谷林道終点の「あいの森」から東回り、西回りの二つがある。この日は「あいの森」から東回りコースをとって山頂に到着、復路は西回りコースを経て「あいの森」へ戻った。道はよく踏み込まれ、要所要所には指標標も設置されて迷うところはない。

花の季節の舟伏山は華盛だ。落葉広葉樹林の山である舟伏山の植生は、好石灰岩や日本海側系の植物も入り込んで、多種多様である。だが、舟伏山の森はごうもブナを



主体にした落葉広葉樹林ではないと思う。シイやカシの両置樹林とブナ林との中間帯に位置する森なのではないかと私は考えている。

私の山歩きスタイルは、言うなれば自然観察登山であるのかも知れない。山に親しみ、自然に尊んで楽しむ……そんな歩き方が性に合っているようで、ピークハントにはあまりこだわらないようにしている。

山ではモクモクと歩いている登山者に出会うことが多い。登山道沿いに咲く花や野鳥のさえずりにも脳目もふらず、ひたすら頂上を目指しているのだろうか。

私もよく御所や槍ヶ岳・穂高連峰縦走のときには独りモクモクと歩き、心身を集中させて雑踏の岩場を越えていく緊張の中で深い充実感を覚えたものだから、どこかストイックにもみえる登り方も嫌いでない。中途半端な山野草への興味で盗掘などされるくらいなら、むしろ花には無関心のほうがありがたいし、下界の喧嘩をそのまま持ち込んだような騒々しい登り方をされるくらいなら、モクモクと登ってもらったほうがいい。

けれど、やはりもっと多くの登山者に山の自然そのものを楽しんでもほしい。登山者

が山の自然に親しみ、愛することがなければ、自然は必ず破壊されてしまうと思うからだ。

山に行けば、その山の動植物などの自然を知りたいと思う。だから、これまで歩いた山については、自分なりの植物リストを作成している。

また、山の頂上から見える山々の名を知りたいと思う。山頂に立つて、コンパスと20万分の1地形図や5万分の1地形図などを使って、山座同定にいつも夢中になる。けれど、一回の山行で一つの山の全植物を記録したり、山々の名を知り尽くすというのは不可能なことだから、何回か歩くことになるし、何回も足を運ぶことのできる山に登りたいと思っている。

登山口からしばらくはススキの植林帯だが、「さくら峠」を境に植林帯を抜け出し、ミズナラ・シテ類・カエデ類を主体とした気持ちの良い自然林を歩く。私の確信だけどもカエデは、ヤマモミジ・オオイタヤメイゲツ、珍しいところではツカカエデなど14種類ある。

東回りコースのハイライトは、まず、カタクリである。中腹から山頂まであちこちに広く群落をつくっている。個体数では鈴



やませみクラブ

初心者のための

山歩きを楽しむ会

●ゆったりした行程、ペースです。
●基礎をもう一度学びたいという方も大歓迎!!
●お一人でも、どの回からでもご参加いただけます。

期日	テーマ	予定コース	費用
1区 3月6日 日	「山歩きのための基本講座」 野外に出る前に、基本知識(服装や持ち物など)を徹底して、一緒に勉強します。 講師: 西村弘美(前会より変更の場合もあります) *参加希望の方は事前に申込みください。	大塚会場: 大塚市中央公会堂 第二会議室 星の町: 14時30分~16時30分 星の町: 10時30分~12時30分 (星ノ森同じ内容の講座です。)	1,000円 (〒451-8581)
1区 3月10日 日	「山歩きのための基本講座」 野外に出る前に、基本知識(服装や持ち物など)を徹底して、一緒に勉強します。 講師: 西村弘美(前会より変更の場合もあります) *参加希望の方は事前に申込みください。	大塚会場: 大塚市中央公会堂 第二会議室 星の町: 14時30分~16時	1,000円 (〒451-8581)
2区 ※日帰り ①3月17日 日 ②3月20日 日	「歩き方・休み方 ステップ1」 休憩法、歩山一歩の歩 魅力ポイント①〜④までは簡単な足ならし、早歩きを交えていかに疲れないかを体験する。登山者の心得がある。登山者の観察力、歩幅を調整します。	*陣山(標高425m) (歩行3時間10分) 大塚(8時発)→水尾→陣山→高倉山→大塚(10時帰着) (下山後、入浴の予定)	10,000円 (お弁当付)
3区 ※日帰り 3月31日 日	「歩き方・休み方 ステップ2」 大塚・山崎公園〜大塚山 魅力ポイント①〜④までは簡単な足ならし、早歩きを交えていかに疲れないかを体験する。登山者の心得がある。登山者の観察力、歩幅を調整します。	*大塚・東武大塚山(標高697m) (歩行3時間10分) 大塚(8時発)→水尾→陣山→高倉山→大塚(10時帰着) (下山後、入浴の予定)	3,500円 (お弁当付)
4区 ①4月7日 日 ②4月10日 日	「地図を読んでもよく」 新井・高尾山〜大塚の里 (地図・コンパスはこらでも用意します) 魅力ポイント①〜④までは簡単な足ならし、早歩きを交えていかに疲れないかを体験する。登山者の心得がある。登山者の観察力、歩幅を調整します。	*大塚・金尾山(標高570m) (歩行3時間) 大塚(8時発)→水尾→陣山→高倉山→大塚(10時帰着) (下山後、入浴の予定)	① 11,000円 (お弁当付) ② 10,500円 (お弁当付) +4区では大塚山(8時帰着)です。
5区 ※日帰り ①4月21日 日 ②4月25日 日	「歩き方・休み方 ステップ3」 大塚・山崎公園〜大塚山 魅力ポイント①〜④までは簡単な足ならし、早歩きを交えていかに疲れないかを体験する。登山者の心得がある。登山者の観察力、歩幅を調整します。	*大塚・金尾山(標高570m) (歩行3時間) 大塚(8時発)→水尾→陣山→高倉山→大塚(10時帰着) (下山後、入浴の予定)	① 11,000円 (お弁当付) ② 10,500円 (お弁当付)
6区 ※日帰り 5月12日 日	「歩き方・休み方 ステップ4」 大塚・山崎公園〜大塚山 魅力ポイント①〜④までは簡単な足ならし、早歩きを交えていかに疲れないかを体験する。登山者の心得がある。登山者の観察力、歩幅を調整します。	*大塚・金尾山(標高570m) (歩行3時間) 大塚(8時発)→水尾→陣山→高倉山→大塚(10時帰着) (下山後、入浴の予定)	11,000円 (お弁当付)
7区 ※一泊二日 5月25日~26日	「山中夜泊する」 大塚・山崎公園 魅力ポイント①〜④までは簡単な足ならし、早歩きを交えていかに疲れないかを体験する。登山者の心得がある。登山者の観察力、歩幅を調整します。	*陣山(標高425m) (歩行3時間10分) 大塚(8時発)→水尾→陣山→高倉山→大塚(10時帰着) (下山後、入浴の予定)	28,000円 (朝ごはん・夕食 2日目の朝ごはん)

※大塚山・大塚山・大塚山などの山行プランを予定しています。詳細はお問い合わせください。

アミューストラベル株式会社
〒451 大塚市中央区 4-5-3 本町三井ビル 2号館B1
〒451 大塚市中央区 4-5-3 本町三井ビル 10F
TEL 0120-802514 FAX 06-265-3306

お問い合わせ
フリーダイヤル **0120-802514**
TEL 06-265-3306 FAX 06-265-3303



イワザクラ
鹿の蹄痕をよ
さか「カタクリ
の山」と形容し
てもよいくらい
だ。

さらに、露出した大きな石灰岩塊にはピンク色のイワザクラ(サクラソウ科)がハッと目立つ。イワザクラは全国的にも希少種だそう。山と溪谷社のカラー名鑑『日本の野草』に掲載された写真のイワザクラは、この地、美山町のもの。ここ数年、春に舟伏山を歩くと、盗掘されず無事に咲いたイワザクラの花に出会うのが楽しみの一つとなっている。

「みのわ平」を経て最後の急斜面を登り、さきと平坦地になり、やがて標高1040mの舟伏山山頂に着く。山頂は見晴らしを得ようと樹木を伐採してあるのだが、見るも無残な景観である。

南北に幅が広がるのだが、本日はガスのため視界が悪い。天候さえ良ければ、北に能登白山・大白山・日水岳・平家岳などの眺望が得られるが、私は南東に広がる低山の景観のほうが好きだ。天狗ヶ城・釜ヶ谷山・大黒山・古城山・岩崎山・松尾山・横山・天王山・蓮生山と続いている。

山頂から西の森へ入り、小舟伏を越え西回りコースは、ニホンソウとハクサンハタザオのすばらしい群落が見られる。谷間に緑を敷きつめたようなニホンソウの見事さには、登山者から繰り出し、歓声があがった。

舟伏山は植物の影も濃く、
これまでにニホンソウの群れには二度出会った。秋、植林地のアカマツ植下には「サルのエビフライ(サルが食べたマツボックリの糞)」が散らばっていた。

ヒトリシスカの一枚を踏みつぶして登山道を橋断したと思われるニホンソウの足跡アオキを踏んで食するカモシカの食痕とともに、カモシカ顔とも思える小さな岩場では、海を眺めた。山頂岩場では、新田入り混じったノウサギの糞がいっぱい。

インシシは、秋、アプローチの林道で車のすぐ前をウリ坊(インシシの幼鳥)背中をウリに似た模様がある。が横切ったし、頂上

部ではスタック(インシシのドロ浴び)と糞とけもの糞。崖地のドロ浴びはくっきりとした足跡を発見。林内の斜面には土班跡(インシシが根・根を食するために掘り出したところ)に至る所に見られる。

また、野鳥も多く、オオルリ・クロロウミ・ヤブサメ・アオゲラ・コルリ・コマドリのみならず、カケスによるイカルの鳴きまね、ヒガラの甘え鳴きなども聞くことができる。

そして秋には、稍をかすめるように堂々と飛翔するクマカカに出会うことができた。聞長2羽は優美な輪舞曲で舞う姿は感動的で、離陸するジャンボジェット機を見上げる子どものように、高鳴る胸で茫然と見つめていた。

舟伏山は、森の奥深い生命の営みをひしひしと感ぜさせる山だ。「舟伏山の自然は一景目である」と思える。

(平成7年4月29日 日歩)

大阪府最南端の渓谷と尾根を巡る

神野山と三国山周辺彷徨

紀泉

酒井賢治

私の職場は大阪市天王寺区内の八幡堀ビルの最上階にあり、快晴で視界のよい日には驚異的に大阪府東部部をとり囲む山々が一望できる。東は近く生駒の山並みを望み二上山、大和葛城山、金剛山系と続き、南へ裾曲しながら紀見峠の深みを経て碧湖山、南葛城山さらに和泉山脈に連なつて大阪湾に消えている。

特に視界のよい日の午後おそく、山並みが西日に照らされ、日の当たった部分と日陰の部分が素直らしく立体的に見え、思わず双眼鏡を手にする。真南に焦点を合わせると、蹴上峠の鞍部の左右に鳥が羽を広げたとように緩やかに盛り上がる南葛城山と和泉山脈東部の山々が視野に入る。大阪府内

の山では北嶺と共に私の好きな山域だ。

千石谷林道から幾木かの支谷や小屋根を登降しての南葛城山、御光滝林道から園伏に広がる支谷や小屋根につけられた踏み跡を求めての三国山や神野山への彷徨などは、めったに人に会わない静寂の山行が味わえる。近くの山城でも登山者の多い金剛山や若潮山などの喧嘩とは段違いだ。

水ぬるむ3月中旬、冬季には連休していた滝畑ダムへのバスが運行される頃になると、私はまたしてもこの山城を彷徨したくなり、恐りもせず飽きもせず滝畑へのバスに揺られるのである。

4月1日、南葛野線で河内長野市駅に着き、9時35分発の滝畑ダムゆきのバスに

乗る。このバスは3月中旬から12月中旬までの土曜、休日に運行される季節運行だ。

バスは郊外に出ると金剛寺、天野サイクリセンターを通過し、滝畑トンネルをくぐり滝畑ダム左岸に沿って走る。左には一掃防山から神野山にかけての山裾が手にとるようだ。車窓前面に望子城山や西勢山のこんもりした山容を見て10時過ぎ、滝畑ダムに着く。

右下に滝畑ダム河床に設けられたキャンプ場を見、幅広い自動車道を南へ5分程歩くと釣り堀や倉庫、民宿のある岩洞山への登山口である。バス同乗の四、五人のゲ

ループがそろそろの方へ登っていった。今日は、以前から注目していた御光滝林道から後台石山へ6.5kmほどに登り、神野山北尾根を歩いて山頂へ、後は足の向くまま奥の向くままの山野彷徨を決めている。

私一人だけが真つ直ぐ滝下木谷に沿った筆架道をゆく。出合橋を渡り光滝寺への坂道を登けると、渓谷対岸の岩壁上部から、すぐ上流に稚児の滝をかける谷からの清流が滝状に落ちている。光滝寺キャンプ場を過ぎる坂を登ると、右下樹間より光滝が垣間見える。この廻り一帯は俗に「滝畑四十八滝」といわれる通り、美しい渓流に多

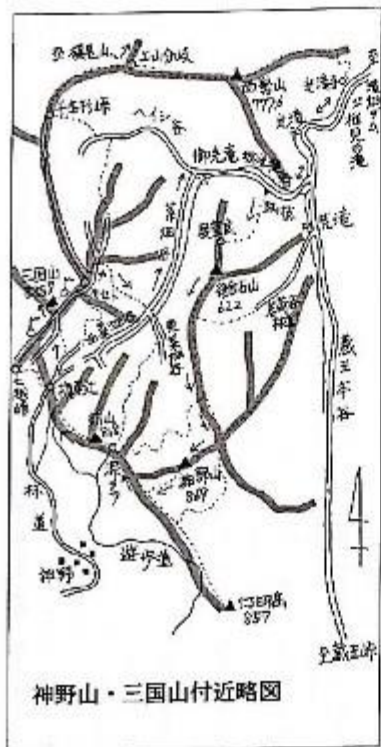
くの滝がかかっている。10時30分、御光滝林道分岐に着く。ここで國王木谷と岐かれ、新緑いっぱい御光滝林道へと入ってゆく。

堰堤を過ぎ、橋を渡って右に美しい渓谷を見ながら林道を進んでゆくと左に水場を伴ったコンクリートの階段がある。ここが山行準備の道を利用しての後台石山への取り付き点だ。

階段を上がり、小谷に沿ってつけられた踏み跡を走り、丸木橋を二回渡って後台石山北尾根への植林山腰を急登する。山腹はおおむね三段に分かれ、下段は植林の中のジグザグ道、中段は若い植林の中の作業道、上段は植林と雑木のブッシュ帯で高度差約150m、20分程で雑木の尾根にのる。東側に素晴らしい展望が出た。膨大な山容で静かに響える南葛城山、前に扇山を従え目慣れぬ姿で響える若潮山、この山城最高の展望に足留めをくらい小休する。

後台石山山頂は植林で風通しよく、すぐ池田と磁石を頼りに南面雑木道を下り、鞍部から西に方向を変え、登り返し後採道後の可愛いピークに着く。近く樹林におおわれた後台石山、そして西勢山や岩洞山、南葛城山などのワイドな展望が得られた。

一転、薄暗い植林帯を緩やかに上下し、



尾根らしき地形を求めて前進する。植林帯から雑木に変わりとようやく踏み跡も明確にはなってきた。尾根の先のある場所だと思いたく、以前若狭谷に下ったポイントだ。た。なあって、こんな所に出るのか……と低山峻険の魅力を改めて感じる。自分が付けたビニールテープが懐かしい。地形もようやく尾根状になり、陽光を受けた新緑の雑木帯を登る。展望はなく、全くの静寂だ。右に神野山北面をトラバースして深タワに出る道を抜け、急登すれば神野山頂上部の植林帯で、山腹東側を巻き十字路に出る。真つ直ぐは灯明岳へ、左へ下る踏み跡は茗荷谷林道への道だ。右へ植林の中をかかわらない神野山平頂に着いた。薄い踏み跡があり、南は植林、北は雑木となっている。わずかに盛り上がった平頂部の樹木に、東京の居人の登頂記録がガラス瓶に入れて吊るされていた。この旗は他の山でも見かけたことがある。神野山は展望もなく三角点もない、単なる山並みの盛り上がりすぎないが、寂々とした静けさが私は好きだ。ここで昼食をとる。

踏み跡をゆき、途中から南へ植林帯を下り、和泉山腹路を歩路に出る。左へゆけば灯

明岳を経て城主峰に出るが、私の足は右に向き、よく踏まれた総走路を西下する。右から先程のトラバース道を合わせ、すぐ林の中の深タワに着く。右へ下れば茨菜畑谷を経て御光滝林道に出られる。茨菜畑谷より深タワへ取り付くには、谷に着いた道を少し測ると右の植林の木に青テープが巻いてあり、ここから逆ヤブの斜面を強引に登ると踏み跡が現れる。

昨より直ぐ直ぐと雑木の道を登る。畑山を越え、小さなビークの左を巻き下ってゆくと、左から葛城町遊歩道を合わせ幅広く明るい道となる。前面に空路監視センターが立つ三國山の大きな橋長の山容を見る。左に神野の集落からの林道が合流する地点で、右へ山仕事用の作業道に入ると、素晴らしい展望が広がった。

北から東方向にかけての眼前には、御光滝谷の清流を成す新緑の山肌と支尾根が、三國山や神野山の主稜線から急斜面で谷に落ち、その向こうに岩湖山が全容を見せていた。流洲ダムの水源である分次嶺の山々をほとんど見渡せる展望だ。

10分程度展望を楽しみ再び林道を進む。南に鈍色に光りながら進行する紀の川や、遠く霞む高野の山々を見て、境界尾根上の

和泉山腹路に着く。真つ直ぐは三國山の腹を登って十越峠への道だ。右へ表道を登って三國山を目指す。1000m程で左へ切り割り状の道を登ってゆくと、開通間もない幅広の林道に合流、さきに進んで三國山リーダー監修遊歩路に出る。右に対空遊歩路を見て遊歩道を横断し、樹林とクマザサの中の踏み跡を緩やかに登り15時20分、三國山山頂に着く。樹林で展望はないが、西へ少し下ると雑木の切り開きがあり、大阪湾上の関西新築港や、遠く流洲港や六甲山脈が望めた。山頂から北へクマザサを分け監視遊歩路に出で少し、樹間の牛坂のセトの分岐に出る。左の道は尾根に千木杉味を経て檜尾山尾根寺に出る古い西園巡礼道だ。この巡礼道の途中から流洲側への下山道として、千木杉味よりヘイシ谷へ、上山分岐より西勢山を経て流洲寺へ、また十五丁の石地蔵分岐より獅子登山へ登りボテ峠に下る三つの道があり、時間と体力に余裕があればいずれの道から下ってもよい。泉南側にも幾分か道があるが私は下ったことがない。今日、私は変化を求めて右の林道に入る。

この林道を終点の広場まで行けば、そこから短い山道になりヘイシ谷に下れるが、途中から茨畑谷の出会いに下ることにした。



檜尾山東の境界尾根から大阪府最南端の山と谷(右に岩湖山と南麓城山が見える)

セトの分岐から2000m程進むと、右側に赤いビニールテープが巻かれた切り株のある所から植林の中の踏み跡を下る。少しで植林から解放され、明るい雑木帯になると再び展望が広がり、近くだらだらの神野山の山容と今朝歩いた北尾根、そして右に野谷の峰を巻えゴリーム豊かな南麓城山を見る。イバラの多い雑木の中の不明瞭な踏み跡をぐんぐんと下ると、茨畑谷の小さな支谷の源流域に出て、後は小谷の右岸踏み跡を中央に下った。このルートは昭文社刊「エリアマップ」では遊歩道となっていて危険のマークも記されているがそんなに険しいものではなかった。ただ、地図のルートの破線は若干途切れているようだ。谷の清流が増すと再び植林の中の道となり14時20分過ぎ、西茨畑谷と茨菜畑谷の出会いに下り着く。周囲の稜線を仰ぎ見てひと息つく。今日歩いた神野山や北尾根、檜尾山腹路の稜線が青空に映えていた。

小休後、茨菜畑谷左岸に沿って大御滝など見ながら林道を下る。左からヘイシ谷と合流すると御光の流の休憩所まで、すぐ下に御光の流が落差10m程の飛沫を上げている。辺りを静かにして、いつ見ても形のよい素晴らしい滝だ。御光滝林道を下ってゆくと、

今朝山に取り付いた水場のあるコンクリートの階段に着く。清流で汗を拭きボリタンクを満タンにした。後は往路をのんびりバス停まで引き返すのみ。深谷で風の早い焼肉パーティー集が美味そう匂いを漂わせ、怪笑いをあけていた。

15時15分御光滝ダムバス停に着き、25分乗の河内長野市ゆきのバスに乗る。頂上部が暗黄色のカヤトにおおわれた岩湖山が春の陽光を受け高く輝いていた。

(平成7年1月1日歩)

▲コースタイム▼
 流洲ダムバス停(40分) 御光滝林道より山への取付点(30分) 後台石山(1時間) 神野山(1時間) 三國山(10分) 茨畑谷への下降点(30分) 茨畑谷(1時間) 流洲ダムバス停

▲地形図▼昭文社「54 紀伊半島」
 ・御光滝林道より後台石山への水場のあるコンクリート階段は現在、柴が置かれ通行禁止となっている。従って、神野山北尾根へは、茗荷谷林道終点(10分)より小谷に降りて対岸のビニールテープを頼りに、山腹路み跡を登る以外はない。日地出版の登山地図では、後台石山を後生石山としている。

磐梯山

1819

浅野孝一

磐梯山は会津地方を代表する名山である。磐梯山の南には猪苗代湖が、北側には明治二十一年の大噴火によって出来た松原湖、五色沼等の美しい湖がある。それをめぐる温泉も多い。

東京から自動車を利用すれば、日知りも可能であるが、二日間の日程を用意し、第一日は山麓の湖めぐりをしてから温泉に一泊して二日目を登山に費やし、ゆっくり磐梯山の自然を味わいたいものである。

磐梯山へは南方即ち翁島コース、表磐梯コースが、北方からは東磐梯コース、川上温泉からのコースと、磐梯ゴールドラインを利用して猪苗代方から中ノ湯経田の登山口がある。中でも一番よく歩かれ楽な中

ノ湯コースを説明する。

一日目、私達は昼食を多方市のラーメン店とってから午後、五色沼の一つ弁天沼畔からは双耳峰に見える磐梯山を見て過ごした。夜は川上温泉に泊まった。泉質は単純温泉で、泉温は三十三度から四十度位とか、ほごよい湯かげんであった。

磐梯山の説明を試みてみる。「日本山獄志」は「磐梯山、別稱磐石山、萬代山、會津田代國耶麻郡ノ東方ニアリ、磐梯村大字磐梯ナル磐梯温泉ヨリ凡一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高六千四百八十一尺」と記している。

また、「日本名勝地誌」は山名について「大磐梯・小磐梯・新ヶ峰・赤壇の四峰を

より一帯の水蒸氣が白粉末等煙の如く柱状を爲して立登り、尚ほ引續き愈々劇しく鳴響し、十五回石くは二十回の大鼓裂あり、破裂の奥谷に明燈は雲霧に向ひて、初登のものと同じく高く飛騰し、最終の一登のみ北方に向ひて橋に抜けた」と記す。

そして磐梯山の北麓に松原湖、秋元湖、五色沼等の美しい湖群が生じた。その反面この噴火による人的被害は大きく、当時の記録によると、崩壊面積一里四方、被害地区八里四方、埋没した人は五百余人、戸數百戸以上であったという。

二日目も快晴であった。川上温泉から磐

梯ゴールドラインを辿って猪苗代方台まで車に乗った。不用となった荷物を車内に置いて出発した。

登山道は幅広くゆるやかな登り、ブナ林の間を進む。尾根を乗り越え小沢を渡った右手に中ノ湯温泉があり、宿泊することもできる。ここを過ぎると本格的な登りとなり、火山礫石の石の露出した登山道で、樹林帯を抜けると左下に松原湖方面の展望が広がる。

登山道は尾根筋から右へ山の鉅面を登き、再びゆるい灌木帯を抜けると弘法清水に出る。休憩小屋が二軒あり鈴杓など購入することができ、あたりの風景が広がる。弘法清水には大勢の人達が水くみの原番を持っているので水は下で用意したほうがよい。

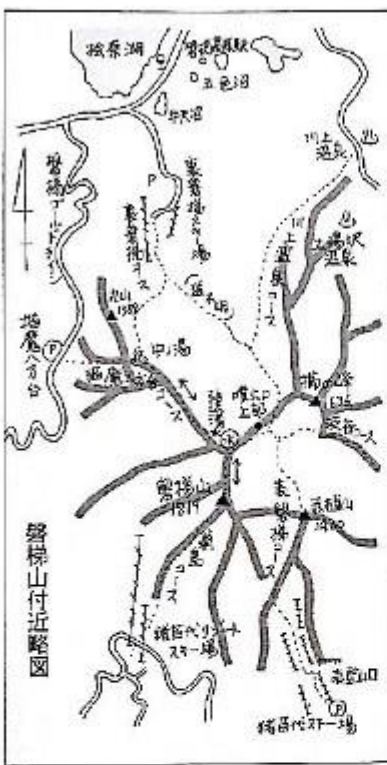
磐梯山の頂は露上に見える。灌木の間の登山道は急であるが、思ったより早く山頂に着くことができる。山頂は岩の積み重なったもので、小さな石の祠が祀られ登山者でいっぱいであった。

山頂の祠について「新編會津風土記」は「磐梯山頂に磐梯明神トテ石ノ重祠アリ、常ニ登山ノ者ナケン共、毎年六月十五日ニハ祭アリテ祭請多シ」と記している。

磐梯山は独立峰だけにその眺めはすばら



弘法清水 (撮影 大森善治)



五色沼 (井天沼) から見た磐梯山 (撮影 大森善治)



新ハイキング選書

【第6巻】再版出来!

花の山を行く

松本雪枝 著

その足跡のほい、山の花をたずねてのしるしとトレッキング文庫。

★好評発売中! 定価1650円(税込)

【第8巻】

旅がらすの山

富田弘平 著

★三版発売中!

【第9巻】

一等三角点の名山100

★重版発売中! 定価1650円(税込)

【第10巻】

四季の山

沢 聰 著 画と文

★最新刊・好評発売中!

【第11巻】

いで湯浴泉記

大石真人 著

★最新刊・好評発売中!

【第12巻】

東海自然歩道を歩く

後藤典重 編著

★最新刊・好評発売中!

【第13巻】

甲斐の山

小林経雄 著

★最新刊・好評発売中!

【第14巻】

百歳までの山登り

富田弘平 著

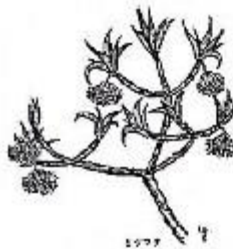
★最新刊・好評発売中!



山頂の祠 (撮影 大森善治)



髯梯山山頂 (撮影 大森善治)



しい。北方に朝日連峰、その右手には吾妻山系、安達太良山、南方には足下に箱根代湖、そして秩父津の山々が眺められた。下りは往路を戻った。途中で東京朝立ちのパーテイとゆきらがった。
(平成7年9月9日、10日歩)

▲参考タイム▼
猫滝八方台駐車場?・45 / 中ノ湯8・20 / 8・25 / 弘法清水10・00 / 10・15 / 髯梯山10・50 / 11・05 / 弘法清水11・40 / 11・45 / 中ノ湯13・00 / 猫滝八方台13・40
△地形図▼ 2万5千・髯梯山・猪苗代湖

Low alpine mont-bell CAMP Gramicci
ハンパ物処分セール
(40%off) 3/1~3/31

CAMP-HIKE-CLIMB
TOMY WALK

あったかーい肌着・フリース・上着をそろえ、春先の登山をサポートします

営業時間 12:00~20:00
定休日 月・火曜
次田市内本町1-23-7
TEL. 06-319-0597

●販替でのご注文は 発行所 新ハイキング社 総務東京3-146913 送料当社負担 東京都北区滝野川7-6-13 電(03)3915-8110

立派な山小屋のある

山伏

8月下旬の、日差しが暖かくなってきた雪山というのは、なかなか難らかで開放的な気分をさせてくれる。そんなひとときにも今年もまた盛り合いたいと、何度も履裡に浮かんで歩き回りにしていた山伏に行くことにした。うら寂しいイメージを勝手につくっていたのは、山伏の北にある七面山に登った時の、雨の印象が尾を引いているのだろう。ガイドブックには、「笹原の山頂でとても明るい」と記してあり、山小屋もあるのので一人でぶらりと行くには、うってつけの山である。

例年になく花粉症がひどくて、普段の六七割の力しか出ないが、行かないまま無為に休日を送るよりは、くやしいことだ。数年

松田敏男

南アルプス

前、八ヶ岳の雪の山を登るとすっかり症状が消えたこともあるのだから、腫瘍病をとるべきだと、心にはずきをつけてみる。しかし以前に一度、身証の駅前旅館に着いただけで、一泊して帰ってしまったこともあるのだが……。

山伏への登山道は梅ヶ島温泉の三前にあるので、静岡駅でバスに乗りかえて登山口に行く。身証まで回る必要がないので、新幹線を利用すれば時間的には案外近い位置にある山だ。

新幹線の高い料金を払うほどの山であるかどうかは、人それぞれの好みで一概に言えるものではないが、私は日だまりに包まれた3月末頃の南アルプス前衛の秩那の山

山伏山頂



が大好きである。これまでに八ヶ岳山・大雪山・駒形山・富士見山に行き、すべて晴天に恵まれた。他に正月の日向山も晴れたが、秋の黒頭山とコールデンウィークの七面山だけは雨だった。

梅ヶ島温泉の少し手前の新田で下車した。雪が降りだしていた。バス停前の万屋でパンを買い、パンチにすわってそれを食べながら落ちるまでこうとした。花粉症にはありが

たい冬の天候だが、初めての山を前にして少々不安だった。

茶畑の大きな遠風感がカラカラと音を立て、降りしきる雪の中に道は続いていた。チラホラとある民家も降雪の中に眠っているように、まるで人影がない。地形図を頼りに、交錯する道の中から登山道を選びながら進むと、やがてこれしかないという一本道になってきた。天候は冬に逆戻りしているが、体のほうは一瞬にして花粉症のない季節に移動できるわけではなさそう。



力が出ない。山の上の小屋にたどり着けそうにもなかったらそこで寝ようかと、道の西側に注意を向けながら進んだ。ちよっとした山仕事の小屋がけを見つけたら、登っていきうちにもうだめだと思えば、ここまで下山してお世話になろうと思えながら、降りしきる雪は積もる程ではないが、この季節には照りがけないことで、前途に不安をつのらせる覚悟立ってであった。

わさび田の中の取皿を登る。谷が狭くなってきて、そろそろ生活のにおいが消える境目に来た。暗れているなら、ここは山里の一番上のはずれの、キッと心がなごむ所なのだろうなあと、日差しのある光景をイメージネーションで引き寄せようとするが、目の前の現実には、少しずつ雪が積もり始めていて寂しいかぎりだった。

先はまだ少し長いので、体調の悪いこの状態では、雪深いだろう山頂にうまくたどり着けたとしても、余力を残しておけないような危険な状況という不安が、次第に膨らんでゆく。

傾斜が急になり、山深くなってきて大岩に着いた。一左わさび小屋「石山伏」という標識がある。わさび小屋へはどのくらい

で行けるのだろうか。泊まれるような所だろうか。少し思案したが、無駄な往復になる可能性もある。少しでも体力を損なわないように、右をとる。無題だと思えば引き返せばいい。フライシートがあるから途中まで下山すればいい。

人に会わなくなって長時間ほどしか経っていないが、雪が降りしきっていることもあって、いつもよりずっと早く気が持ちはずわり、気が交わって来た。

大岩から右へ植林の山のトラバース道を行く。10分も歩かなかったと思うが、行く手左方に小屋が見えてきた。これまでに通り過ぎてきた山仕事の小屋の中では、いちばん立派に見える。「あれだな、今宵の泊まり場は」という蓋感水走った。登山道には水場がつくってあり、上に雪の積もったベンチまであった。「きれいな所でありますまうに」と祈りながら、登山道から雪の斜面を20分ほど登る。床があった。お世話になろう。こんな上下、こんないい小屋があるなんて幸運だ、ありがたいことだ。

板敷が敷かれ、破損した出入口をふさぐ。窓は単に開いてあるだけで、フライシートをひっかけた外気を遮断した。中がかなり暗くなってしまったが、床に敷



小伏山 伏山 市山 静岡

いた銀
マツト
はオレ
ンジ色
のフラ
イシー
トを通
した弱
い光を
反射さ
せ、目
にあた
たかい。

朝起きたら小屋がなく、雪の上だったというのではないだろうな。宮澤賢治の「注文の多い料理店」の主人公にはなりたくないぞ。ほんとと安堵の時間がきて、こんなことを思う余裕がでてきた。

ここは山腹だから、夜には動物の動く音が聞こえるかもしれないと思っていたが、風の音さえ無いまま、静かな夜を過ごした。次の日、窓から外をうかがうと植林の間に青空が見えたので、坂を降りて外に出て周りを見れば、背後の山の上には真っ白な樹氷が朝日に輝いていた。「お世話になりました。小屋に一礼をし



富士山を望む
山伏より

た。私の命を守ってくれているこの車軌になった動物は、生駒、雪の山を駆けめぐっていったのだらうか……。

て出発する。すぐに雑木林の中、ジグザグの登りが始まった。葉の落ちた林の中の雪道は、めっぼう明るい。さのうの光景とも小鳩とも全く違うから、花粉症といえども元気がでてきた。

遅峠という、越えて車に降りる訳でもない尾根の上に出た。正面に大谷崩が見える。雪が付いているので厳しい表情だ。ここから上部も多くは尾根の上より一段下がった所に道がつけられていたが、いつしか尾根の上を行くようになり、積雪量も増えてずいぶん高い所に上がってきたと思う頃分岐だった。左は山伏小屋、右が山伏山頂である。ひとまず荷物を小屋に置いてから、山頂へ行くことに決めた。

分岐から山伏小屋まではすぐだと思っていたのだが、長く感じられた。下りの傾斜の急な所からは、前方に大無間山が立派に望めた。

小屋は被褥からちょっと右手に下がった所にあつて、周りは細かな雑木が深い雪の中に広がっていた。日差しの強い雪の中にいたので、小屋に入ると目が慣れるのに時間がかかった。きれいな小屋だった。真ん中に干間が通っていて、凍っていた。絵の道具とカメラと食料を持って山頂に

しか寝入っていた。

次の朝ほとんどよと盛っていて、詩おり細かな雪の舞う天気だった。でも道はしっかりしている。何の不安もなく、絵が描けなかったのは残念だが、ゆっくりに山の上のきれいな小屋で一夜を過ごせたことに満足した気分下山した。

遅峠まで下るとよく晴れたので、ジグザグに下った沢沿いでコーヒーをたてる。大きなブナの木の、背をバックにした美しい枝ぶりを見上げながら、今回の山行も良かった、良かったとひとり愉しんだ。

登りに、はからずも泊まることになった山仕事小屋を右手上方に見て、お礼を言う。大岩には日がふり注ぎ、登りの時とは全く違う明るさは、2日前の進退を遡還した心算が思い出せない程だった。わさび田にも暖かい日差しがいっぱいで、茶畑の広がる山頂は、早春の喜びに満ちあふれていた。(平成7年3月28日 28日歩く)

△コースタイム▽

新田
山伏小屋(1時間20分) 山伏往復(5時間)
山伏より富士山を望む
山を駆けめぐっていったのだらうか……。

△地形図▽2万5千1梅ヶ島

向かう。空はますます青くなってきた。新

雪だから雪は真っ白、枝にも雪が残り、雑木の空とそれに光る白い雪とのまぶしいコントラスト。先程の分岐を過ぎてしばらく登れば、山の雄相は一変した。樹林帯から雪原に出たからである。低原といっても今日は大宮原。その中に樹木のかたまりが所々にあったり、大木が一本倒れた姿を立っていたりした。富士山が見え、山頂と思われる所が近づいてきた。新雪はトレースを消すほどでなく、雪原とはいえ道はしっかりして、踏み外せばすぐ分かる程度に踏み固められている。雪原を振り返れば、新雪の上に自分の足跡だけがくっきりと刻まれ、快晴の雪山をひとりじめしている。爽快だった。

山頂には大げさな標識があつてやや残念だったが、それよりも心残りだったのは、南アルプスだけが雪雲をまとっていたので、絵の道具はホッカするだけに終わってしまったことだ。

体調が良ければ翌日は大谷崩へ回ろうかと思っていたが、雪は全く踏まれていないよう、膝より上までもぐもぐ状態だった。明日は見晴らしが良くて、空身でまたここまで来ようと考えた。

低山登山〜本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

弊ハイの会社直営で更に割引します。



とスキーのヨシメ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06(772)7231

JR天王寺駅
北出口右へ
歩道橋渡ってスク

大好望の雪山

星山と周辺の1等三角点

備中

多摩雪雄

吹屋に惹かれて
サブリーダーの小幡は、宮脇俊三氏より以前に、私鉄を含めた鉄道各線と主要駅周辺の探訪を終わっているが、駅から過隔地にある各所までは訪れていない。小幡が山登りに転向して早くも一五年余が過ぎた。今回、岡山県奥地の1等三角点星山(星山)の計画を見て、井樹の吹屋へは、ぜひ寄ってほしいという。

3月初旬朝方の降雪は、いつしか止んで雲低く庭の無い穏やかな曇り日となった。

旧街道の吹屋往來の両側は、連ねた千本格子をベンガラに塗った軒の低い家並みが続き、狭い道をたまたに通る小型車が不似合いなほど入気のまるで無い、静かな佇まい

であった。

紅白の長靴を立てたそば屋。元祖弁別釜元の胡麻の頑丈な組立格子。巨大鎖・吹屋村住居の石柱を立てた井筒格子建戸。大きな仕込み楯の底部に想を散らえ、古い酒器を扉外に陳列している酒屋。吹屋郵便局と染め抜いた腰旗を下げ、明治期の郵便受を入り口に配した、小僧らしいベンガラ造りの日曜日の郵便局など、ほとんどの家屋が、天井の低い造りの二階建て、白漆喰の太い堅格子を見せたり、土蔵造りとなっている。軒だけ、薄暗い室内に、手造り菓子、漬物、地元老人の製菓店や奇石等を並べた雑貨・土産物屋があり、皆は、思い思いの買物をやる。私もつられて千円ばかり土

絵付けに用いられるベンガラは、三和土に藍にひいた薬の土台以外は、柱も羽目板も格子も、すべて赤く塗られている。

岡山県から新見市へ抜ける旧備中街道の東、山中に繁栄したるりりり人の銅山も、今はわずかに300人足らずの、小さな赤い集落となった。

第一回、浅香・曹の風口

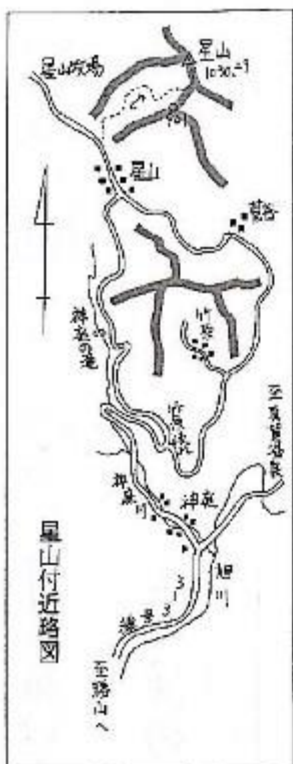
吹屋の奥西に、岩峰踏切橋を伴った、天神山(777・566)の1等三角点標石を積雪の中から発見し、向に下った美尾町では、公園風の広大な枯れ草の中に埋もれていた龍王山(504・568)の1等三角点標石と天測台に触れた。ここで岡山市在住の会員山本さんの同行を得て、北方(2・2)、明治

備中探訪隊の予備調査も済ませた。

この日最後の大平山は、哲嗣町の最南峰とはいえず、無標中継所フェンス山の頂かな高みに1等三角点(698・099)の標石が埋定され、そこから少し離れて方位標も設置されていた。一段下には立派な林割舎があり、広範囲を見渡せる展望台となっていた。

深雪の星山

勝山町の北、国道313号線に面した真備温泉旅館は、我々山屋には恰好の旅館であった。瓶と野のさしみ・鮎魚・蟹足酢のもの・とろろにうす玉子・トンカツ・野菜のうま煮・盛そば・浅湯すまし汁と漬物。飲物込みで千円ほど安い。



星山(左奥が山頂)



帰宅して調べたら、実は宮脇氏の著書を読んだのだ。吹屋村は、銅の産出量が日本一で、住友や岩崎(三菱)が大財閥になった基は、ここで得たのだという。

銅と共に磁化鉄鉱(ベンガラ)の原料も産出した。木材の腐蝕、虫害防止や磁器の

翌7時、車で旭川右岸の国道を南に走り、神原川左岸道を北西に登って行く。竹原分れの少し上部の道幅狭い曲点で諦めなくなる。

「竹原から曹谷を経て星山に行け」とは言ってみるものの、道幅広い舗装路は凍結の上に急坂となっていて、運転手はチェーン装着の意欲がない。仕方なく歩くことになった。

もたもたして20分も経過して、8時ジャストに歩きたし、30分で神庭の池上部を通過する。さすがこの道は呆れえがある。湖敷、遊学の小形車がひっきりなしに通過する。これでは先刻の曲点が通れても、待遊場のない狭い谷筋道ではどうしようもない。星山集落に出ると急に谷が開け、棚田の両側に家屋が密集して小学校まである。ここで合流する広い谷谷ルートは、積雪が深く踏さない。「林道星山線は落石があって危険なため町道見廻線に回れ」とある。

星山吹屋手前の標高600m地点に、山頂まで2・5分と記された、星山登山口の立派な標示板はあるが、いきなり60分の積雪となり、スパッツを着替しラッセル隊を編成して出発したのは9時20分。標高の歩きやすい所を拾いながら登り、標

初登頂

—花嫁の峰から
天帝の峰へ—

平井 一正 著 三六〇頁 写真・地図多数 予価三〇〇〇円
 (日本山岳会京都支部
 京都大学学士山岳会)
 カラコルム、チベットの未踏峰4座を全て
 無事登頂に成功した著者の足跡は、
 日本のヒマラヤ遠征登山の歩みそのもの。



星山三角点と筆者

高差60分ほどの上部の林道まで20分かかる。以後、深流治いに雑木林から杉林に入って五合目の標高まで45分。前山との鞍部までは、さきほど15分かかる。そこは8500m地点で、防火標が広く、左(北)正面に真っ白い頂上が見えている。

屈指の原生林と溪谷美

大台ヶ原から大杉谷へ

日野節雄

高台

大台ヶ原散策
 近鉄の大和上市駅からバス2時間ほどで大台ヶ原駐車場に着く。途中の大台ヶ原ドライブウェイは、上に行くに従ってブナの大木が目に入ってくる。しかし着いた所はまるで上高地のように、食草・売店・展示棟などがある。時期によってバスの便が少ないので確認が必要だ。

登り着いた分岐を右にしばらく行くと、途中で千石淵の細く長い白い滝が右奥に見える。分岐から10分ほどで大蛇岬展望台だ。正面には以前著者の山旅をした大峰山脈のパノラマが広がっている。山頂の一つ一つが盛情深い。すぐ右に懸崖がそびえ立つ。崖とは岩という意味と聞く。

先ほどの分岐に戻って行くと、広々とした千石ヶ原に出る。喜多に似た石と、昭和二年製の大きな神武天皇の銅像がある。案内マップには「イトササ」の自然公園と書いてあるが、深山久弥氏は「ミヤコササ」と書いていて、「日本福大隆興」もそうなっている。「ミヤコササ」の方が正しいのではないだろうか。



日出ヶ原1等三角点

関西山越の古道

中庄谷 直著 各一〇〇〇円
 山生跡 葛城二十八越 六甲・丹生越 30本
 樹敷山 高野山 西国霊場 熊野 伊勢 23本
 京都丹波の山(上) 内田 嘉弘著 二〇〇〇円
 山陰道に沿って 福岡・福知山・三礼・夜久野・大江の山 57山
 福岡・福知山・三礼・夜久野・大江の山 57山

ナカニシヤ出版
 京都市左京区吉田二本松町2
 電話 075-751-1211 7606

ムツ子。大穴が点々と続く。松林を抜けると、檜と笹の広い河に出る。後方に低い山々が重なりあって見える。広い斜面の中で八合目を過ぎると、大岩の重なる前衛の肩を過ぎ小高い雪原の星山頂上に着いた。

東から那岐山・津原山・若山・鳥ヶ山・大山・毛無山・花見山・雄山・大佐山と、真っ白い山々が重なり重なり連なるものな山脈が得られた。この周辺は林野庁山官林管轄の国有林のため、頂上の木々はだいぶ以前に伐採されたのであろう。

積雪下の三角点標石探したのであろう。9針の標石は、全身真っ赤に塗られていた。中国地方の呼称では、尾ヶ山と言っているのであろう。この山の3月に降った新雪を踏み登るには、なまじアイゼンより荒縄の方が、歩きやすいようだ。

頂上に着いたのは11時40分。北西の風5針、層層雲9、気温は2度。本降りながら冬装備をしていたため寒くなく、1時間も滞頂してしまった。

ここには、もう何も残えなくていい。このままの素晴らしい眺めを、後から来る人に見せてあげたい。

(平成7年3月初歩)

▲コースタイム▼
 文中を参照
 ▲地形図▼2万5千11横断

が、これも山旅の楽しみの一つである。風呂も食事も順番待ちだが、ゴールデンウィーク中では仕方あるまい。

大杉谷へ

ゆっくりの出発となったが、今日の歩程は長時間だからそれもよいだろう。

駐車場脇の大台社の右から広い登山道に入る。鹿が朝の運動会をしている。ジュウイチが「ジュニー・チイ、ジュニーチイ」と鳴いている。ここから標高差約1000計



大台ヶ原・大杉谷付近略図

の登り、40分で日出ヶ岳山頂に着く。深田氏が「秀ヶ岳」と書いている1等三角点の広い山頂だ。大きな展望台からは西に大峰山脈が隠れて見え、東には熊野灘が見えるというが、春だから雲は散らさず見えない。波頭も何も見えない。ここでロケット雨量観測機を初めて見る。

合宿山荘は、奈良県東部の高尾山から最高峰日出ヶ岳まで、県境の原生林の多い山域だ。多雨帯で年間降雨量5000ミリ以上というから、雨に濡れなかつただけでも幸いだ。

ここから栗谷小屋へは三重県側に入り、標高差約550計下る。途中シヤクナゲ坂で一服。私はこの山の林相が大好きだ。苔むした地に太く高いヒメシヤラが白く光り、ブナ・イチイ・コマツガ・トウヒなどに芽吹き前の生気を感ずる。

栗谷小屋は国営で林野庁の管理とか。車があるところをうろと林道が出来たのだろう。水が豊富で、水洗便所は使用料1000円取られるだけあって清潔だ。登山者が急坂を登りながら桃ノ木小屋から登って来るのには感心する。

大杉谷への下りは急で、どんどん下っていきると突然大滝に迎えられる。雲白滝だ。

早も食事も北アルプスの山小屋並みだ。大杉谷は中間地点にこの小屋があるので、ゆっくりハイキングが楽しめる。宮川貯水池からこの小屋まで来るだけの人も多い。春よし、秋よし。雨にさえ濡れなければ、巨岩大滝の渓谷美に堪々となること間違いない。歩かないと損をするハイキングコースだ。深田氏いわく「渓谷の美しさは日本中で屈指といっている」。

宮川貯水池へ

小屋の前の桃ノ木吊橋を渡り、加茂助吊橋を渡ると対岸に絶壁の崖が現れる。ロッククライミングをする人もいるのではないかと思われる岩壁だ。平等堂吊橋を渡るにニコニコ滝。落差180計一段の流に、思わずここにこする。15分も下ると掛ヶ淵(別名掛淵)の川岸に着く。両岸の絶壁に映まれて、ニコニコ滝が見え、澄んだ水前に映える風景は山水画の世界だ。



七ツ釜滝

ひと思われて岩のトンネルを抜け、軽い上下を繰り返すと、山の天辺から滝が落ちてくるのびびりする。大杉谷中流差最大の大滝160計の千尋滝だ。地図を見ると、千尋の高という山から千尋谷となり、それが青空から直降するように見え、玉スダレをかけたような爽快さは見事としか言いがたい。

30分も少くと広々とした流れのゆるやかな熊谷河原に出る。思はずと木々のすべてが芽吹き、黄・緑・赤・茶などの、多彩な色の変遷に感動したのは、光線の具合ばかりではないだろう。大自然の美しさとはこのことだと思ふ。これが秋になったらどんな情景をしてくれるのだろうか。また会いに来たいと思つた。

深山の原生林から、多くの吊橋を渡りながらの深谷上。大滝はいくつあったらう。自然の息吹を十二分に味わった山旅だった。

宮川第三発電所まで、地獄谷・熊谷・大日出の吊橋を渡り、六十尋流もたいしたものだが、これまでに見た滝に比べるとほんの小使流にしか見えない。

船の中で小学二年の男の子が、私たちと同じ道を歩いて来たと言っていた。

(平成7年6月5日、7日歩く)

憩う場所というだけであって私も1時間遊ぶ。堂倉滝吊橋を渡って、すぐ堂倉吊橋を渡る。対岸に五八郎滝が二条に分かれて落ちている。少し行くとも足元から滝の音が聞こえるが滝口の見えない隠れ吊橋を渡って振り返ると隠滝が見えた。

これからも岩壁伝いの道だが、幅広く、太い頑丈な鎖が取り付けられていて子どもでも心配はない。とはいえず西所恐怖症の私は両手で鎖を握って歩く。見上げれば木々は新芽を吹き、「きれい！」としか高いようがない。対岸の山腹にアカヤシオが点々と咲き、ウグイスが鳴き、心がなごむ。谷底は大石がゴロゴロ。水は滑らかだ。

次の光滝は約40計の高さから飛散していて耳もかかるといふ。七ツ釜滝上吊橋を渡る「名瀑白道」の一つ、七ツ釜の滝。三段に白流を落とし、若し、木々の緑と、滝壺の水の澄さのコントラストは、私が今まで見た流の中でも十指に入りたいほどだ。滝の眺めのよい場所に小屋があり、写真を撮る人、休む人あり。ここから約25分で桃ノ木小屋に着いた。

桃ノ木小屋は標高約550計の所にあり、昭和十五年開業とか。本館二階の上段に席をとりえられ、またゆっくりに談話となる。風

▲参考タイム▼

- ▲1日目▶京都駅7・40(電車) 橿原神宮前駅乗り換え(電車) 大和上市駅9・21(バス) 大台ヶ原11・40 大台山の家11・50 12・50 大蛇倉13・50 14・10 正木ヶ原15・10 山の家16・00(泊)
- ▲2日目▶大台山の家7・45 日出ヶ岳8・25 145 栗谷小屋10・30 145 堂倉滝12・40 13・40 桃ノ木小屋15・15(泊)
- ▲3日目▶桃ノ木小屋6・30 猪ヶ淵9・35 110 20 宮川発電所11・45 懸崖橋12・20 13・20(船) 大杉バス停13・50(バス) 松原駅(電車) 名古屋駅

▲地形図▶到文社▶「57大台ヶ原・大杉谷・高尾山」

▲費用▼

- 京都▶大和上市(近鉄特急乗車券) 1900円
- 大和上市▶大台ヶ原(奈良交通バス) 1250円
- 大台山の家 2食付7000円
- 桃ノ木小屋 2食付8000円
- 大杉バス停▶松原(三重交通バス) 不明
- 松原▶名古屋(近鉄特急乗車券) 3410円
- ▲問い合わせ▼
- 奈良交通(二重) 074775(2) 4101
- 奈良交通(三重) 05596(51) 52440

フクジュソウ咲く

西三子山

朝は、人が決して登れない剣山の崖。おちに孤独に咲いた桃色のツツジ、三百まで遊んで見えずうなほと真ッ青に澄んだ無限の大空、じめっとした不快な汗をぬぐうだけでなく心のわだかまりまできれいなさっぱり吹き流してくれる爽快な風……、山には人の心を元気づける力があるのではないかと、思わせる時がある。



フクジュソウ
西三子山の天辺を
目指している途中、
黄色いフクジュソウに出会った。春早く、ほかの草花に先んじて雪を割

尾野 益 大

四 国

って咲くその花を求めて来たのだから「出会った」というのは不適切かもしれないが、屋でも元の雨かない暗い杉林から開放され、枝越しに雲早山など同様の山が見える明るい支脈に出て、すっかり癒しくなった頃でもあったかや、足元から陽の光を眺め返しているような黄色の花に気づいた時は本当に驚いてしまった。そして、目に見えない元気を与えてもらったような気がして足が軽くなった。

とわづついた雲を散らすまい山頂は新木林になっていて、僕のほかに人影はなく静けさに満ちて「山へ来たぞ」といった実感が強かった。高城山・雲早山・高丸山のピークが、四圍に見渡せる山の中では都合際立っていた。しかしそれでも、フクジュソウを見た時の喜びほどにはまだ数倍はなかつた。花の魅力の方が、山々の風景に勝っていたのだらうと思う。



三角形をした西三子山

現っていて「花の園」を思わせた。また、花ではないが、三樹の紅葉したコマツツジはまるでサンゴのように華やかだった。

この日みたいな朝風に欠けた体の不調な時でなくても、花に感動している時が少なくともちょっとあったのだ。『みんな活力を生み出す力があった』と確かに思え、それが次の日からの生活に潤いを持たせていたことにも気がついた。こんな時しか改めて考えないのかもしれないが、「山には登頂感やパノラマだけでなく、道筋の小さ



な風物にも、山の美晴らしさ美所楽点を教えてもらえることがあるんだ」といった思いに至って急に短しくなった。

登り時にわかににくい箇所があり少し戸惑ってコースしたことを承認すると、すぐに山頂を登ってちやうどよかった。

早くも帰ってからの仕事のことまで頭がいっぱいになっていた。

関西・山越の古道を歩く

寺山 英男

④ 暗越

12月3日、曇晴で暖かい。近鉄船田駅で中年のおっちゃん、おぼちゃんが28名勢ぞろい。

豊浦町の細い坂道を登る。5分も歩くと左手に観音堂があり、非いていたら住職が出てきて、庭にある芭蕉の句碑をみせてくれた。説明までしてもらった。

狭い国道なので右側に回り谷川に沿って登る。紅葉が最高に燃えていた。全歩隊まりそうだった。

法照寺側から国道に戻る。車がよく通る。すぐに観音寺。境内には、延命水が湧きよく吹き出している。「天然ミネラルウォーターです」と説明板。

「口飲む。ボトルに入れる人もいた。車を避けながら登る。弘法の水に善く。チョコチョコとしか出ていない。以前はもっと水量が多く、水を汲む人で混んでいたのに。真州でトンネルを掘ったのが原因

道の奥までしきを進む。山中に入る感じだ。左側に石仏あり。次の辻にも石仏あり。右の道を進む。左側に水田があり、右側の細い道を進むと竹藪になる。落ち葉の多い道である。竹藪を抜けた所に腹浦地蔵があった。地元の人には勝手によく知くと言われている。駅から約1時間である。

ここから地蔵堂までは歩いて歩きやすい。雑木林の中をカサコンと落ち葉の道を歩く。まるで動物の上を歩くような感じがした。小鳥の音も楽しい。

30分くらいで地蔵堂に着いた。管理が行き届いており清潔で、前方に信貴山が見える。

途中で出会った人の話では28名で講をつくり歩道をしていると聞く。桜が多く、今年には家族全員でここで花見をするよと決めていた。5分ばかりで鏡子ヶ池。なる程この池の伝説にふさわしいハート型をしている。スカイラインのガードレールを越えて河内側に入る。「実質的に河内越といえるところである」とガイドブック(関西山越の古道)上(ハナカニヤ出版)にある。曲がりくねった急坂を下る。林道を道ぎてなおも下ると油池に出る。スカイラインを越えてからの道を心配し

だらうという。昔から親しまれ、どんなに晴大が続いても潤れたことのない神域からの恵みを自ら注ぎこむことは、悲しいことである。

暗越近くで左に曲がり慈光寺に寄る。境内は人影もなく、紅葉が赤や黄色に陸やかであった。はらはらと舞い落ちてくる。その下で昼食にする。静寂すぎて話し声も小西になる。

寺の右手の登りを急ぐ。落ち葉がカサコンと音をたてる竹藪を越えたら暗越に出た。

ここから下り。少し下ると、防人の石蔵。30分ほど過ぎたころ、石仏に出会う。薬師如来とある。

小庵に守られ美しい顔をしておられた。約1200年前に彫られたものだと言明書きがあった。

今日の例会は、天候に恵まれて、思いがけず美しい紅葉を鑑賞出来たことを感謝して、手を合わせた。

近鉄南生駒駅まで、にぎやかにお喋りしながら下った。

ていたが、歩く人が多くなったのかしっかりとした道既であった。

十三道に出たら多くの人が登って来る。石仏の窟を下る。

在野系平のロマンスの説明板あり。少し下って愛宕塚とあるので寄り道をする。巨石を積み上げた古墳であった。かなりの努力を持っていた地衣類のもののだろう。東大阪町、八尾市あたりは古くから開けた地域で、歴史もある。

第二万葉植物園があり覗いて見た。花は枯れていたが、説明書があった。栗京名と植物名、そして効用。中前草(オオバコ)利尿薬、散積(オミナシ)止血病人病、十薬(ドクダミ)利尿皮膚病悪性のおできなどもあり、思いつかれるものもあり興味がつきない。

近鉄服部川駅に向かう。良いハイキングコースであり住き元日であった。16時、駅に到着。



⑤ 河内越

12月8日、近鉄元山山口駅から生駒山口神社に向かう。赤く色づいたカラスワリが垂れていた。静かな神社前で常夜灯に女性が紙を張りつけていた。正月の準備中である。

次の目標である膳桶地蔵に向かうが、なかなか見つからない。神社まで戻って民家で訊くがはっきりしない。狭原地区を走り回ったが判らないのであきらめる。付近を散策がてらます高台に出てみようかと正面右側の舗装道路を登る。登りつめてふと足元を見ると社らしきものが見えたので近づいてみたら「薬師地蔵尊」とある。思いもつかない場所であり、ここに辿りつくのに3時間以上かかってしまった。味越えは明日再挑戦とする。

元日、山口神社からの登りは雑木林・水田・段々畑のある山間風景で、都会育ちの私にはうれしい。15分程度で愛宕十字路に着く。

昨日は、ここまでで膳桶地蔵があると思いつき、探し回っていた。前の道を進ると丁字型になる。左右に行かず前に見える坂

「この花・この草」

フキ (Pheasant's Footed Morn.)

キク科

雪の中からそっと顔をのぞかせて春の訪れを告げる、葉の裏、その葉の裏と野菜的フキが同じ植物だということを知らない人は意外に多いようです。

葉の裏はフキの花の蕾で、開花後、茎葉が地下茎の先から出てきます。

葉の下の由来は、中国の雑糧録食経の「蓬葉」に似て円く広し、その葉を煮て食す一ですが、この植物は不明です。日本では「出雲風土記」に「蓬」や「秋葉」が記述されています。和名の出典は新撰宇辞「不々支(全葉和名)布々岐」かです。

葉・葉(柄)は食用。地下茎や根は生薬名が鱉汁菜。有効成分はペクチンで腫瘍療法では、腎を助けて咳止め。

フキは本州以南から中国まで広く分布していますが、栽培種は3倍体のため種が出来ず、地下茎を株分けして増やします。また、アキタブキ(二重)と和国フキといつてコウモリ傘位の大形のものも奥羽地方から北海道特産で、いろいろ加工食品にされています。

野の花讃歌 (14)

市川 正次朗

春一番の花との出会い

待ちに待った春。「あそびがい」「こ
がいい」と、仲間のお山登りにはうさぎは
かり。だが、仕事の関係などで顔ぶれが揃
うのはせいぜい一月、二回が関の山。それ
でも足りない連中は、昭文社の登山地図を
片手に、あるいは新ハイ線のガイド記事を
参考にして登っているようです。
春一番の山の楽しみは、やはり春一番の
花に出会うこと。

登山口となる麓の里の日当たりのよい斜
面には、フキノトウの鮮やかな明黄色、イ
スノグリの可憐な薄紫の花が連えてくれま
す。

社会や私達の回りでは歓迎されざること
がいろいろ起きるけれど、自然は間違いな
く確かな春の訪れを教えてくれています。

しかし、山道にかかるとまだまだ冬の世
界。登るほどに残雪の多さにけっこう難儀
したり、思わぬ春の雪や冷たい風に身震い

することもよくあることです。

そんな厳しい環境の中でも、花は咲くの
です。すこい生命力だと思えます。厚く
おおわれた雪の地をばっかりと踏むよう
に山の花たちは蘇生します。

登山道の雑木林の下生えにはミツバオー
レンやセツブンソウが、花期をためらうよ
うに小さく咲いています。陽の当たると
筋に出ると、鮮やかなフクジュソウの黄色
が雪解けの「島」の中で目いっぱい春を告
げています。

いつの季節でも出会いたい花はいろいろ
あります。特に、これまで見たことのない
花への思い入れは強く、ガイドブックの花
便りや山の友人の情報をもとに出かけるの



朽木村でキクザキイチゲ
この神秘的な色合いは見事です。

京都一周トレイル ひがしやま 東山コースを歩く

秦 康夫

京都東山

京都盆地は三方を山に囲まれ、街中でも
方角を見失うことはない。四方を見渡して
山のない方が常に陸である。

三方を取り巻く東山・北山・西山の放策
ポイントをつなぎ、京都市街から見える山
をぐるりと一周歩いてみよう、というのが
「京都一周トレイル」で、京都市の産業観
光局観光課が中心となってルートが
整備され、第一次として「東山コース」が
平成5年9月に完成している。

京阪電車の伏見稲荷駅から、京福電鉄の
ケープル比叡駅まで、東山三十六峠を上り
下りして全長24.5km。ハイキングとして
は二回ないし三回に分けるのが普通だが、
トレッキングを兼ねて一気に通して歩いて

みようということになり、グループのメン
バーが伏見稲荷駅に集合し、午前8時ジャス
ト東山比叡山を目指してスタートした。

本日の降水確率は午前・午後とも20%、
気象情報通りの曇り空が広がっているが、
いまのところ雨の心配はない。下見の際の
時刻表を参考に、順調に行けば終点のケープ
ル比叡駅には午後5時到着の予定。所要時
間は7時間を見込んでいます。

JR奈良線の踏切を渡り、雀やうすらの
焼き鳥の店が並ぶ参道を歩いて伏見稲荷大
社に入る。奥宮の下の広場で盛い準備運動
と打ち合わせを済ませ、朱色の鳥居の立ち
並ぶ中を参拝者を追い越しながら奥社へと

料亭塚より比叡山と手前に大文字山を望む



向かう。

まもなく、小型の鳥居が二列に分かれて
1級あたり五、六本位、びっしり並んでい
る。この鮮やかな朱色のトンネルは「千本
鳥居」といわれているが、ざっと数えたと
ころ、左側の一列で約90本、右側で8
00本弱か。千本には少し足りないよう
である。因に、鳥居の塗り直しをしている職
人さんの話では、伏見稲荷大社全山で鳥居

ですが、わずかな時間差で花期を逸するこ
ともしばしばで、なかなか思いどおりにい
きません。

そんな花の一つがキクザキイチゲでした。
「日本海側の山に行けば咲いているよ」と
聞き、春先には老丹國境尾根にこだわ
って見たこともあったのですが出会えずじ
まい。

ところが去年の4月、ガリバー旅行村か
ら蛇谷ヶ峰へ登った帰り道、朽木回りで大
原へ車を走らせていたら、同乗車の一人が
「ちよっとストップ」と大声。小さな川沿
いの、心ない人にゴミを投棄された空地に、
その花は咲いていました。

あたりがあまりにも殺風景だからこそ余
計に、薄紫色というのが、言葉でいい表せ
ない神秘的な色合いが印象的でした。

このキクザキイチゲとは翌月の5月の週
休、奥美濃・高島田の残雪の中で再会しま
した。

私のそれほどでもない山の経緯で申し上
げると、これら春の花に出会うには鈴鹿山
系か御代、奥美濃あたりがいいようです。



伏見稲荷大社の千本鳥居

の総数は約2万9000本くらいあるとのこと。

「千本鳥居」を出たところが奥社の参拝所。まだまだ鳥居が続く。上りでは鳥居の表側の「奉納」の文字しか目に入らないが、振り返って鳥居の裏側を見ると、奉納者の名前と住所が大きく書かれている。さすがに全国に数方ある稲荷神社の総本宮だからあって、気が付いただけでも席の宮備から北は小樽まで、日本各地から集まっており、中には米国・ロシア・セルビア・韓国産という名も見える。

右手に池のある熊鷹社というところを通り過ぎ、三辻を右に曲がって鳥居の中の石段を上ると四辻に出た。ここで小休止。

先はまだまだ長いという若干のあせりもあって、かなり早足で登ってきたので早くも息がはずむが、四辻を過ぎると平坦な地

道となり、まもなく京都市街の素晴らしい風景が眺める。この辺りでようやく鳥居からも解放される。京都タワーのすぐ横には改革中の京都駅の鉄骨、そのはるか向こうにそびえるのはおなじみの愛宕山。真っ直ぐ前方には京都北山、花背峠の赤と白のまだら模様鉄骨が鮮やかに眺められる。

失意な下り道が終わわり、東福寺方面への道を左に分けて民家のガレージと竹林の間の石段を右に下る。小さな木の橋を渡って左へ曲がったり、次は右へ曲がったり、このあたりややこしいが、要所には「京都一周トレイル東山コース」の標識があり、これを市営天にたどれば迷うことはない。

石段を上って山道に入るが数分で京都市前の駐車場に着く。門前には「御寺英商寺」と大きく書かれている。皇室の菩提寺なので特に「御寺」というそうである。

観光客気で泉源寺前の広い参道をのんびり100歩ほど歩き、右に折れて西国第十五番札所の今熊野観音寺方面に下る。朱色の橋をくぐり、泉涌寺公園、鳥戸野陵を通れば、間もなく御神社の前へ出る。子どものお封じの神様ということで、子育て熱心な人のお参りが絶えないそうだ。神社前の三叉路を急角度で右に折れる。

を飲む人、それぞれ栄養補給に懸命である。北の方を眺めると、これから登る大文字山の稜線が目の前に広がる。その遥か彼方、大きくぼんやりとみえるのが本日の最終ゴール、比叡山の峰々。前道遠道とはこのことか。

新築の豪邸など眺めながら町中の道を東へ進む。ルートの標識に従って左に折れ、短い石段を上って滑石敷道を登れば、すぐ大きなコンクリートの防火水塔が現れ、その左が同宗門ヶ峠への登り口である。静かな雑木林の中の山道となり、右手に頂上への踏み跡らしきものがあるが、そこは英通りして下りになる。この東山コースは、大文字山にしろ瓜生山にしろ、少しのところではピークを外している。多少寄り道になってもいいので、頂上を通るコースを作って貰えたら、ピークハントの楽しみも増えておもしろいと思うが、どうだろうか。

この辺りは、JR東海道線と新幹線の東山トンネルの直上。山道が終わわり舗装道路を左に行けば西国道下見線、山ノ内町バス停である。コース標識を頼りに車の多い渋谷橋を横断し、1号線下の地下道を出て、すぐ左の細い地道を登ってしまっただが、これは私有地を通る近道。1号線に沿ってまっすぐ進み、公設社の橋の急な石段を登って左に折れるのが正規のルートである。

清水山登山口から將軍塚へは1・6km。この登りはけっこうしんどい。急激にビッチが落ちる。今までにぎやかだった話し声が消え、はあはあ喘ぐ息の音に変わる。ヒ



京都一周トレイル
東山コース案内図

(京都市産業観光局ガイドマップより)

こがピークか分からないが、清水山を越えて少し下り、道の両側の石段みで囲った二休のお地蔵様を通過。ほっとひと息入れたところで、また登りが始まるが、これは短い。数分で東山山頂公園の將軍塚に着く。立派なヘリポートができています。

ここで10分ほど休憩。干柿を食べる人、パンをかじる人、ハニーレモン・ジュース

山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

1 北アルプス編	34 歌麿山
2 日湯山	35 朝日・出羽三山
3 鹿島橋・黒部湖	36 奥山
4 霧ヶ峰・立山	37 蔵王 全山(白根山)
5 上高地・横・奥蔵	38 奥蔵・早池峰
6 系山高原	39 八幡平 全山(磐梯山)
7 磐梯山	40 十和田湖(磐梯山)
8 中央・南アルプス編	41 ニセコ・羊蹄山
9 木曽駒・空木岳	42 大雪山(十勝岳)
10 甲斐駒・北岳	43 白山
11 穂高・若石・聖岳	44 豊山・伊吹・標京
12 妙高・戸隠	45 御岳前・御ヶ岳
13 志賀高原・信濃	46 比良山系
14 軽井沢・湯沢	47 京都北山1
15 西上川・妙蓮	48 京都北山2
16 美ヶ原・霧ヶ峰	49 京都西山
17 ハケケ・妙蓮	50 北摂の山々
18 富士・富士五湖	51 六甲・摩耶・青森
19 箱根	52 箱根高原(二上山)
20 伊豆	53 金剛山・岩手山
21 丹沢	54 紀伊高原
22 奥蔵・奥蔵	55 奥蔵野
23 大菩薩温泉	56 大菩薩山脈
24 奥蔵	57 大菩薩山脈(大菩薩山)
25 奥蔵・奥蔵	58 奥蔵(奥蔵山)
26 奥蔵(奥蔵山)	59 水ノ山(奥蔵山)
27 奥蔵(奥蔵山)	60 大山・奥蔵山
28 奥蔵(奥蔵山)	61 四国山
29 奥蔵(奥蔵山)	62 石蒜山
30 奥蔵	63 奥蔵の山々
31 日光(奥蔵山)	64 九郎・阿蘇
32 奥蔵	65 奥蔵山
33 奥蔵(奥蔵山)	66 奥蔵山

●昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春期発行の代書です。お山行の際はなるべく最新版をご使用ください。また、お山行の際は、お山行の目的地がございましたら、本社編集部の「山と高原地図」担当までお電話にてお電話ください。また、お山行の際は、お山行の目的地がございましたら、本社編集部の「山と高原地図」担当までお電話にてお電話ください。

昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3282)2141(代) 〒102
支社 大阪府茨木市茨木4-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・福岡・岡山・広島・福岡

登山道は、先程まで伏がっていた青空が消え、灰色の雲が空を覆っている。と思う間もなく、突然大粒の雨が降ってきた。杉の植林帯となり、千瀬出陣のあたりを過ぎて間もなく、ケーブル比較駅の建物が見えてきた。最後の階段を上る。15時10分、十二名全員無事到着。笑顔で握手を交わす。小笠山になり、京都市街はぼうっとかすんでいるが、「記念写真に並ぶみんなの表情は、この上なく明るかった。」

(平成7年12月17日歩く)

▲距離とコースタイム▼
伏見稲荷駅(3・8km) 45分 御神社(2・1km) 25分 園遊1号線(2・0km) 30分 稲荷塚(2・1km) 25分 山上(3・9km) 1時間15分 大文字山四辻(3・2km) 40分 銀閣寺道(5・0km) 1時間15分 石の鳥居(2・2km) 50分 ケーブル比較駅

▲地形▼京都市内、同トレイル会発行の「京都市一周トレイル東山コースガイドマップ」があり、京都市内、京都市産業観光局観光情報課でわけてもらえる。

075(755)0230

▲参考▼
東山コースに続き、北山コースが完成している。

北山コース東部
ケーブル比較(一)の麓 17・9km
北山コース西部
二の瀬(清滝金谷路橋) 19・8km
西山コース 清滝(大原野) 約27kmは平成8年完成の予定

ふと気が付くと、先程まで伏がっていた青空が消え、灰色の雲が空を覆っている。と思う間もなく、突然大粒の雨が降ってきた。あわてて雨衣を取り出して身につける。裾の濡れを受けて早々に出発。コースは男性八人、女性七人の総勢十三名。おにぎり・ナシ・インスタントスープ・パンなど、にぎやかなランチタイムが始まる。いつもと少し違う雰囲気を感じるのには、缶ビールを飲む人がいないせいである。まだ先は長い。ビール好きのMさんは持っているにちがいないが、さすがに自車している様子。

急な石段を上りきったところで数分間休憩。息を切り替えて急坂を登り、尾根道へ出たところで、また休憩。登り下りを繰り返して七福出陣という味のような所へ出る。道が七方面に分かれていて、どちらへ行こうかと迷案する所という意味か。コースはまっすぐである。ゆるやかな登りとなり道は歩きやすいが、なにしる距離が長い。目の前に見える大文字山の東峰がなかなか近づかない。40分以上歩いて、ようやく大文字山三角点に到着する四辻に到着。11時50分の予定時刻より10分ほど早い。ここで昼食にする。

山中の道ははやや分りにくいですが、コース標識の助けをかりて進み、北白川(伏見町)スルズレを通ってバブテスト病院坂の山道に入念ながらここから始まる。

山頂には行かず左へ降りる。標高差にして約870mの下山である。がたがたの坂道が広いゆるやかな道に変わり、しばらく歩くと便所(浄水器)の記念碑がある。平清盛に対するクーデター計画(失敗)は、この下の鹿ヶ谷山荘で練られたとのこと。狭谷川の谷間に降りる。桜門の滝という細い元気のよい滝を見物し、15分ほどで車道に出る。青空が広がって真正面に愛宕山が見える。先程の霧は、降ってはすぐ止む京都名物、北山(くれの霧)版か。

ここから急な坂道を、転ばぬように気をつけながら高度約50mほど下り、音羽川流の木橋を渡る。いよいよ最後の登りである。

尾根道をひたすら歩く。左下には、宝ヶ池方面の展望が開け、京都国際会議場やプリンスホテルの建物が見える。やっと石の鳥居に到着。最後の休憩をとる。また噴れあがってきて、もう大丈夫だと雨衣を脱ぐ。あと1時間でゴールの予定。

鹿の楽園

能登ヶ峰の稜線を歩く

鈴鹿の東に登える能登ヶ峰(759.7m)は、植林に覆われ、サクラダテと御所平の高山に囲まれている。北東に延びる尾根の斜面に植林されているが、緩やかな起伏が続く尾根は広い笹と萱の草原で、その中に馬酔木が点在していて、素晴らしい自然の庭園が続いている。人があまり入らないこの稜線は鹿の楽園で、鹿道が縦横に延びている。本誌12号(昭和33年・10月)の特選コースガイドで、鈴川谷林道から能登ヶ峰に登るルートを紹介したが、昨春の集中豪雨で植林の斜面に崖崩れが発生し、かなり荒れている。今回、鈴川左岸の林道から登るルートを歩いたので紹介する。

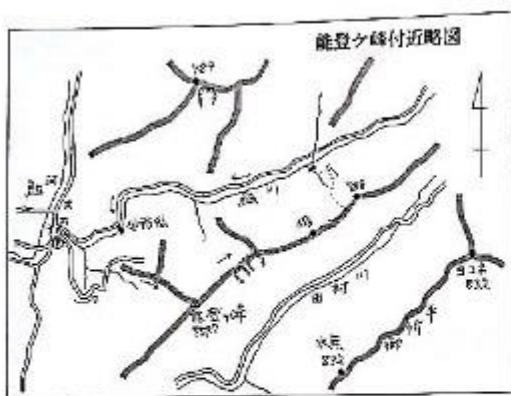
鈴川左岸の鈴川橋に車を駐める。左岸に続く林道を辿っていると地元の人に出会った。能登ヶ峰に登るルートを尋ねると、林道の終点から登られると悪うがよくはわか

らない、と言われた。目の前に登える能登ヶ峰であるが、登るコースを知っている人は、鹿にもあまりいないようだ。林道を歩き山の入り口に到着くと、大きなゲートが道を塞いでいる。猪の進入を防止する柵のようだ。柵を越え、緩い登りを左下に谷川の音を聞きながら進み、谷を渡って左に回り込んで登ると左にまた谷が現れた。その谷を渡る時すぐ右に道路脇の木にテープと紐の印があった。

能登ヶ峰への取り付き点らしい。右折して谷の右岸の袖道に入ると、うっそうと茂る杉林の中に古い道が続く。左折すると又尾根に続いた。左下には林道が続いている。テープと紐の印を通ると、広いが薄暗い支尾根に踏み跡が続く。杉林の中に桜の大木が一本あるが、皮を40×50センチくらい削り取られ白い木肌がむき出しになっている。し

望はない。

左折して草原に向かう。楡林の中を緩く下り、斜面に広がる笹原に出ると、前方に展望が開けた。広い草原と北東に続く稜線が望めた。



能登ヶ峰付近略図

山頂に引き返し、テープの印を追うと、尾根には鹿馬がどこまでも続いていた。下り終わると左の斜面は杉林から草原に変わり、左の草原に登ると馬酔木の株から鹿が二頭と切り取られたようなガレ場があった。

鹿道を下ってガレの槽に登りつめて振り返ると、ガレの奥に杉林が続き、馬酔木が点在する笹原が大きく広がっていた。鹿道が接合も交錯して登っている。笹木の尾根を下るとテープと紐の印はなくなっていたが、赤い杭が続き、切り開きも続いた。下り終わった疎林の尾根は1/2程の笹に変わったが、腰の弱い笹で敷くというほどのことはな

能登ヶ峰の笹の草原と鹿道



かし枯れてはいないようだ。その下で一服。時折小鳥の声を聞くだけで薄暗い静寂の森の中だ。

深く積もった枯れ葉を踏みしめながら登ると、次第に急斜面になった。登りつめると緩く上下を繰り返しながら単調な杉林がしばらく続いた。最後の登りにかかると楡林に変わり、能登ヶ峰山頂に着いた。広々とした山頂はうっそうと茂る楡に覆われ

い。緩い登りを通ると69.6mのピークに着いたが展望はない。下り終わると草原の間にまた鹿の広場があった。萱と笹原が続く広い尾根には馬酔木・タニウツギ・ウツギなどが続いた。

緩い登りの鹿道を通ると前方に赤松が現れ、大きく茂る馬酔木の中を通り明るい笹原に出た。その時左から鹿が二頭鞍部へ跳んで下り、奥の樹林に消えた。正面の笹木と笹原の斜面にも二頭いたが、すぐ右の樹林に消えた。馬酔木が点在する笹原を右斜めに下ると、右横でバサバサバサバと音がして大きな角が見えた。杜鹿だ。鹿二頭を従

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。
(定休・火曜日)
〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎ (075) 211-5768
☎ (075) 231-0318
山とスキーの専門店
京都 ムラカミ



能登ヶ峰への稜線(左奥が能登ヶ峰)

え目の前に飛び出したかと思うと鞍部の奥の樹林に消えた。この稜線は今まで何回も歩いたが、一、二回の遊にはいつも出合っていた。

西の草原で出会った鹿が移動したとも考えられるが、今日は八頭の鹿に出会ったこととなる。近年急速に鹿が増えているようだ。下り終わった広い牧場にも鹿の広場があった。左に回り込んで登ると飯と音原の

ピークに着いた。振り返ると、正面の斜面は草原の中に馬蹄木が点在する素晴らしい自然の庭園で、人が全然入らないこの山域は、まさに鹿の楽園になっているようだ。

涼しい風が吹き抜ける赤松の下で昼食。正面はサクラグチの稜線、真下は賊川谷。右は深い樹林に覆われた750mの山だ。昼食後、緩い下りの稜線を辿り、深い樹林に覆われた鞍部をたがねして、広い谷を賊川谷林道へと下る。道はないが適当に下っていると急坂に変わり、谷が狭くなると右斜面に杉林が続いた。

炭焼き窯の跡が続き、杉林から雑木林に変わると、右斜面に古い道が現れた。谷は急角度で落ち込んでいる。山腹を斜めに下って芝居根の道を行き、右折して山腹を下ると大砂と小石が堆積した古いガレ場である。真下には谷が見えた。このガレの右側を谷に向かつて一気に下ると流が現れ、その下に右いた。下流に向かつて砂防ダムの左を越えると、すぐ賊川の河原に出た。向こう岸の林道に上がり、右折して鮎河へと向かう。

砂防ダム上流道路脇の草原に二本の杉があるが、大きな津波跡が張ってある。その下には山ノ神の石碑があり、樹が萎縮され

エリア別
徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ③①

野洲川ダムから

サクラグチ

サクラグチは今までに本誌で二回紹介されているが、意外に簡単に登れるルートがあるので紹介する。

野洲川ダムの陸に跨るサクラグチ(△918・8m)の周辺は、ほとんど樹林に覆われているが、西に延びる稜線にはまだ自然林が残っている。野洲川ダムの横から直接789mに登り、891mからサクラグチへと向かうルートは、大きく茂る樹林に覆われてはいるものの、南と北に思わぬ展望も開け、しかも気軽に登れるルートだ。

野洲川ダム左岸のイ77号線を進むと、すぐ右上に伐採後、植林されたばかりの急斜面を見上げる。かなり急で心配だが、取り付いてみると意外に簡単に登れた。

道路脇に車を駐める。谷の右岸に袖道があり、道沿いに木の梯子が取り付けてある。この梯子を登り、谷に入るとやがて道が消

えた。谷で水を簡潔してすしし進むと右斜面を斜めに登る道があり、すぐフェンスが現れた。フェンスの中は伐採された急斜面が広がっていた。中に入りフェンスに沿って右横を登る。フェンスの横にはけもの道が続いていた。植林されて間もない輪は鹿やカモシカに食われ丸坊主になっている。

明るい急斜面をストレートに登ると、後方に展望が開けてくる。伐採された後には、樹の切り株にいつせいに若芽が出ていてまるで春を感ずらしたようだ。暗きながら登っていくと、右に植林の中に大きく枝を広げた赤松が現れた。後方の展望を楽しみながら登りつめると、フェンスが現れ植林の尾根に変わった。フェンスの手前で切り株に腰を下ろし、後方に広がる展望を楽しもう。

正面は飯子・奥草山、左に水無・文三ハゲと大嶺ヶ谷の大ガレが茶色の地肌を見せ

野洲川ダムとサクラグチ(飯子の南峰より)



ている。その上が納回山だ。そしてイハイが岳・清水ノ頭・雨乞岳へと続く稜線、真下は濁々と水を流した野洲川ダムが湖面に濃い緑を映し、中央部はさざ波がたち白く輝いていた。

フェンスを越えると樹の植林、左斜面は枝打ちと木刈りが終わっていた。右は雑木の混じる植林地が続いた。途中でひと思入れながら急斜面を直登すると、広い稜線

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発株式会社



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2路 (43人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからアラックスまで

スキーバスもあります

〒578 東大阪市津守本町1-20 オカグビル4F
電話 06(745) 3911・FAX 06(745) 3983
(夜間・電話 06(946) 0816・FAX 06(945) 9044)

周りの草はきれいに刈り取られていた。

(平成7年5月24日撮影)

▲コースタイム▼
賊川谷(25分) 能登ヶ峰取付点(1時間)
能登ヶ峰(20分) ガレ場(1時間5分) 草原の山頂(40分) 賊川谷林道(1時間) 賊川橋

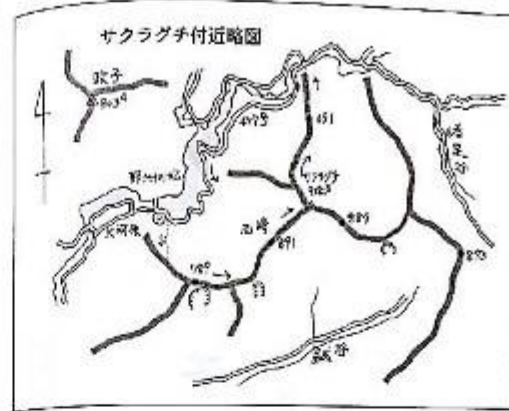
昭文社「45御在所・嶺ヶ岳」

(松野 明)



伏拝斜面から野洲川ダムと雨乞岳を望む

左側にフェンスが現れた。尾根には切り開きが続き北東に展望が開けた。植林の中にはヤマアジサイが咲いていた。急な下りが終わると広い台地になった。フェンスの横の切り開きを通り、左に回り込むと道は谷に向かって直進していた。右の雑木の斜面を右斜めに下ると尾根に出た。右斜面は植林が続き、尾根の先に691峰の岩峰が望めた。杉林に下ると細尾根から岩壁に変わ



に出た。左折して鋭い登りを通り、雑木林に変わると、前方両側が急に開け、789峰のガレ場の上に出た。腰を下ろしてゆっくりと眺望を楽しむ。正面は植林に覆われた能登ヶ峰が見える。左に延びる能登ヶ峰の稜線には若緑色の草原が大きく広がっており、その先は左に仙ヶ岳と草原の広がる御所平の稜線が見えた。そして南に延びる鈴鹿山稜線は登山にも通って霞の中に続いて

双眼鏡で能登ヶ峰の草原を見ると、やはり鹿がいた。馬酔木の手に親子二頭、そして波状の斜面に一頭、草を食べながらゆっくりと移動している。やはり鹿の立場になっているようだ。この草原は稜線近くまで植林しており、フェンスで囲ってあるが植林は全然育っていない。その下も植林だ。雑木と違い杉や檜は直根がなく根は横に延びるため、鹿鹿れが発生しやすいとは聞いていたが、やはり植林の急斜面に四ヶ所大きな鹿鹿れが発生していた。

緩く下ると、ウツソウと茂る樹林に変わり、右の窪地にヌケ場が現れた。左斜面が植林に変わると樹間から細向山から雨乞岳へと続く稜線が望めた。登りつめて下りにかかる。正面に891峰の山頂、そして左には清水ノ頭の草原からゆっくりと高度を上げ左右に稜線を引いた雄大な雨乞岳、そしてイハイガ岳・細向山と続いていた。右下は野洲川ダムである。下り終わると急勾配の登りが続き、左は植林右は素晴らしい樹林が続いた。891峰の山頂は植林に覆われ展望はない。下り始めると正面に植林に覆われたサクラグチが望めた。下りきり最後の緩い登りを進むと、右斜面は、樹の植林に変わり枝打ちされている。登るに

り、イワカガミの群落が続く中をひと登りすると691峰のピークに着いた。

左に岩がある。岩の上に出るとヒメコマツの先に細向山が望めた。真下は野洲川ダムだ。山頂の祠はひっくり返りその横には石を四角に積んだ土倉があった。この691峰の岩峰は、両斜面が垂直に落ち込んでいる。昔はこの岩峰が信仰の対象になっていたようだ。急坂を下ると右斜面は植林に変わり、フェンスと切り開きが続いた。急斜面が続き尾根が消えた。フェンスはストリートに続いていく。左斜めに下ると、尾根が現れ、真下に477号線が見えてくると岩場の下りになった。注意しながら下ると深山裾に着いた。

(平成7年6月28日歩く)

- △コースタイム▽
- 477号線取付点(40分) 植林尾根(55分) 879峰ガレ場(45分) 891峰ピーク(20分) サクラグチ(40分) 691峰(35分) 深山裾(40分) 取付点
- △地形図▽ 3万5千1:10,000

昭文社「45御在所・雑ヶ岳」(岩野明)

リュックザック製造販売

深雪・雪原・雪あそび
雪山に誘われて
応援します。あなたの山登り
山はまだまだ厳冬期
冬山の装備は完璧ですか
・登山ザックに飽きたら……
・登山用品のことならおまかせ下さい。

神戸ザック

オリジナルのパフレットご希望の方は
①200円同封して下記まで。
神戸市長田区大塚町9丁目3-1
〒653 TEL (078) 621-5051
FAX (078) 621-3528

お知らせ

「近江側から登る鈴鹿の山々」を歩く
3月から「エリア別徹底研究」で今までに紹介したコースを山行計画に組み入れて歩くことにしました。

3・4月は四つのコースを歩きます。登山口への交通の便が無く参加はマイカーによる個人・グループに限定させていただきます。コースは一部を除き健脚向きとなります。鈴鹿の山をお楽しみ下さい。

(岩野明)

つれ東西に大きく展望が開けた。ピークで尾根が分かれた。左の樹林に入るとすぐサクラグチの山頂に着いたが展望はない。三角点の標石は腰部が半分斜めに欠けていた。尾根の分岐まで引き返し、南西の展望を楽しみながら昼食。目の前には南西に延びる稜線の先に、能登ヶ峰と草原が望めた。双眼鏡で草原を見るが遠すぎて鹿は見えない。越川谷上流と左の稜線の上空を鳥がゆっくりと旋回しながら飛んでいる。双眼鏡で見ても大きい鳥としか判らない。クマタカか? 以前、安曇越えの稜線を歩いて山女原に下る途中、山仕事の人、クマタカのつがいを見なかつたか、ときかれた。鈴鹿山系の南麓には、クマタカが生息していると言われた。

「鈴鹿の思い出・おもしろ話」の中で、藤原岳の天狗岩で出会ったイヌワシのことを書いたが、鈴鹿山系の北部にはイヌワシのつがいが一組生息しており、その生息を追跡した記録がテレビで放映された。イヌワシやクマタカは猛禽類の王者だ。その鳥が鈴鹿山系にも生息している。素晴らしい自然が残る鈴鹿山系を大切にしたいものがある。

食後、左に尾根をそく、赤い杭が続き

あまのだけりみみかおの
雨乞岳 南尾根の

無名峰を歩く

野洲川の支谷・大納言谷の西に820mの無名の山がある。雨乞岳から南に派生する尾根は、南雨乞岳から966mへへ続き、南西に向きを変えながら無名峰820mから野洲川ダムまで続いている。95年の春は南鈴鹿の山域を回遊も歩いた。雨乞岳の南斜面で、特に大納言谷の南斜面から源流域にかけて、広大な草原が広がっている。大納言谷には古い林道が一部残っているものの、伐採後植林がなされていいため、現在はほとんど近しい青原が谷全体を覆いつくしている。山頂からは300度に近い大パノラマが展開して、思いもよらない眺望を楽しむことができる。開放感あふれる草原の山が近くにあるのを、誰も知らないようだった。

野洲川ダム橋の477号線を進み、深山橋を渡って折返し向家谷林道を通じ、橋を

渡ると右の谷に入る林道が現れる。橋の手前の広場に車を駐める。林道入り口には「進入禁止」の看板が立ち鎖が張ってあった。

うっそうと茂る杉林の中を進ると林道は地道に変わり、広い谷の右岸に緩い登りが続いた。回り込むと道路脇の草むらに、真っ赤な異様な植物がある。ツチアケビだ。親指大の房をいっぱいつけている。漢方では強壮・強精に効くとのことだ。次第に夏草の茂る林道に変わり、谷を渡るとすぐ林道終点に着いた。右斜面に続く杉林の中を右斜めに登ると、支尾根に着いた。左折して支尾根を登る。次第に急斜面の細尾根になり、あたりが雑木に変わった所で岩を登ると、又大きな岩が現れた。岩にはシノブグサが絡みついていて、灌木を掴んで岩を登ると上は岩樹になっていて、その横にトメ



820m 無名峰

コマツが大きく茂っていた。

岩棚に出ると、後方に大きく展望が開けた。左にサクラグチの巨大な山奥、野洲川ダムの上には数子・奥草山から綿向山へと続く稜線が望めた。ひと休みして急斜面を登ると、馬酔入や右袖花が増えてきた。真上に明るい尾根が見え、すぐ尾根に出た。左折して743mピークに向かう。尾根上には切り開きが続き、植林から雑木になり



ツチアケビ

輪も襷の大木が目立ってきた。741mピークに着いたが展望はない。右折して820mピークに向かう。樹間から正面に、樫の大木に覆われた山頂が見え隠れする。緩い下りから登りになると樫の大木が次第に増えてきた。左斜面が植林で夏草茂る尾根に

変わり、右の樹林の中を登りつめると前方が急に明るくなり、820mピークに着いた。東の端に出ると300度に近い広大な展望が広がっていた。

左に綿向山、雄大なスカイラインが静かに連なる清水ノ頭から雨乞岳、笹の緑と色づき始めた榎林、そして大きく山肌を見せる清水ノ頭のカレ境、置在所岳・岩壁嶽ヶ岳は右に白い大ガレの山肌を見せている。上下を繰返す尾根は水沢岳へと続いていく。足元から雨乞岳へと続く稜線の左斜面は、枯れ木が目立つ雑木、右には広大な草



雨乞岳南尾根無名峰(820m)付近略図

原が広がりと大納言谷に落ち込んでいく。爽やかな秋風にススキが波打ち銀色に輝く。切り株に腰を下ろし眺望を楽しみながらゆっくりと昼食後、稜線を820mピークに着いて下る。草原の中に茨の生え込

みが探っていたが、下るにつれ尾根上にけもの道がはつきりと現れた。下りきった鞍部から緩い登りになり、鹿が寝転んだ跡が点々とある。後方には霧隠らしい草原の山頂が望め、眼下の大納言谷にも草原が続いている。雑木と草原の境目を右の谷に向かって急斜面を注意しながら一気に下る。下り終わるとV字形に落ち込んだ谷には2m近い草原が続いた。

流れに沿って緩い坂を下る。谷には林道の跡も広場もあるが、草原に覆われたほとんど道は消えていた。草原の中に小型のダンブカーが一合放置してある。かなり古い型だ。そのうち林道もはつきりしてきて、砂防ダムの下の流れを渡る。左斜面には垂直に近い岩壁が続く。間もなく477号線に着いた。(平成7年9月29日歩く)

▲コースタイム▼

- 白倉谷林道(15分) 林道終点(40分) 岩棚(40分) 743mピーク(20分) 820mピーク(20分) 草原端(10分) 大納言谷(40分) 477号線(40分) 白倉谷林道
- △地形図V2万5千1集在所山中伊勢土山
- 昭文社「46御在所・鎌ヶ岳」
- (宮野明)

秘境の綿向山南尾根

ブナの森を歩く

綿向山から南に派生する尾根は、大船ヶ谷の標頭(922)から二つに分かれる。南に向かう尾根は811(ピーク)・栗原山(820)・敷子(803・4M)と続き、大河原の集落で消えるが、後線はほとんど植林になっている。南東に向かう尾根は南に大きく回り込んで野洲川ダムで消える。この後線の約300mまでは自然林が残り、大きく茂っている。綿向山の山腹950mの行者コバ、そして水無山(985)の南斜面にはブナ林が残っている。秘境に近い南尾根を踏破したが、原生林を思わせるブナの林が残っていて、全然人が入っていない素晴らしい山域だ。

野洲川ダム横のイ77号線を進み、深山橋を渡って左折して白倉谷林道を進む。白倉谷を渡ると正が分かれた。左にとり右に回り込んで河原を渡ると、百草の改る道路

脇に村上林業箱ヶ谷事務所(廃業)・庫建っていた。地道の緩い登りが続き、谷を渡って進むと四方右上に、伐採された明るい斜面が広がっていた。この伐採地に登る袖道を探しながら進むと、道路の右に古樹があった。バイクを止め、広場の奥を探すと左の支尾根に登る袖道があった。

この道を登り、樹林を過ぎるとすぐ伐採後下刈りして植林された斜面に変わった。フェンスの中に入り、フェンスの端を登る。袖道は急斜面に変わり山腹を回り込んで谷に下っている。谷の右斜面も植林したばかりだ。左の急斜面を登ると、尾根はうっそうと茂る杉・松・雑木の林に変わった。尾根には踏み跡が続いている。杉林に変わる山腹を右斜めに道が続き、フェンスが現れ道が消えた。裏上の尾根に向かって急登する。尾根には切り開きが続いていた。左

ブナの木平のブナ林



に進むと右斜面は下刈りと伐打ちされた樹林が続いた。登りつめると正が分かれ、左折すると右に大きく展望が開けた。右には清水ノ頭からの残骸が大峠に落ち、イハイガ岳が一気に突き上げてくる。その山腹には巨大なガレが大きく口を開き、荒々しい山肌を見せていた。ゆったりと残骸を引き上げながら、荒れた草原が綿向山へと続き、裏下には白倉谷の林道が望めた。緩い下り

綿向山南尾根付近略図



は細尾根に変わり、右斜面の樹林は登るにつれて、雑木とブナ混合林となった。尾根が広くなり中央には緩い窪地が続き、うっそうと茂る樹林はゆったりと素直に大きく育っている。これこそ鈴鹿の森だ。右に現れた植林を抜けると、大きく展望が開けた。ひと休みして眺望を楽しむ。

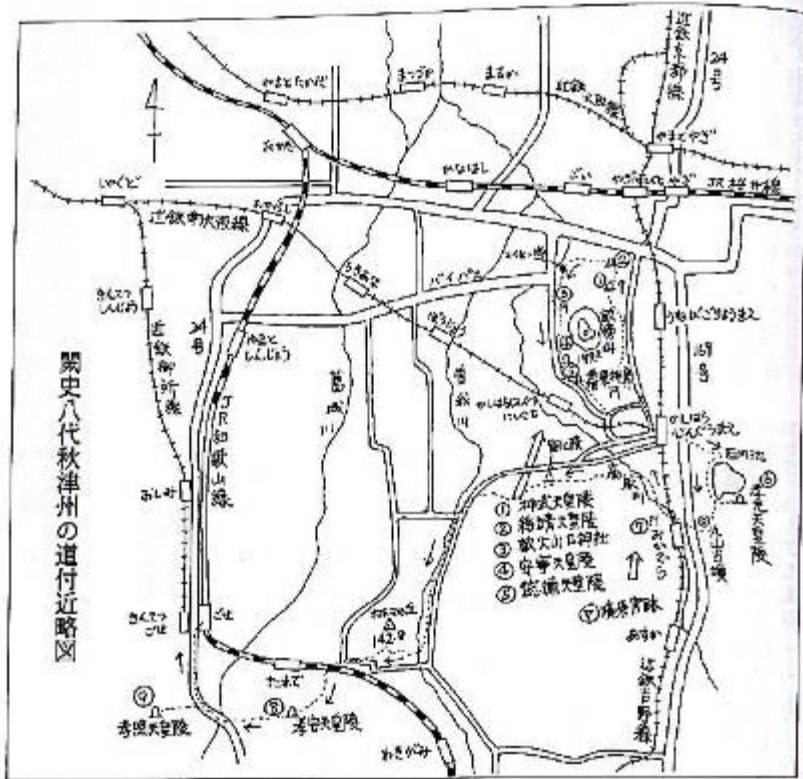
左から雨乞岳・鎌ヶ岳・水沢岳と続いている。登ると樹林の中に馬酔木が増えてきた。枝をかき分けながら登る。尾根には古い踏み跡がすかすかに続いていた。左にガレ場が現れ、その先の山腹に荒れた山肌を見せる大船ヶ谷の大ガレが望めた。その上は992(ピーク)だ。色つき始めた山腹には、樹の大木が影を添えていた。細尾根に変わ

わり、右斜面に樹林が現れると992(ピーク)の山頂である。展望のないこの山頂が尾根の分岐だ。緩い登りが続きブナの木が次第に増えてきた。

笹が現れブナの森に変わった。右は白倉谷の支谷・鹿谷の標頭だ。笹原が広がる斜面にはブナの大木が続き、前方に明るい笹原が広がる斜面が現れた。その手前も笹原が台地状に広がり、左側にはブナの大木が続いている。下は広場になっている。「ブナの木平」・素晴らしい所だ。綿向山にもこのようなブナの森が手つかずで残っているとは驚きだ。笹原の上に樹林の尾根が望めた。ひと休みして重荷を降ろす。笹は腰ぐらいまでだが、傷れているのでかき分けて

登るのは大変だ。後方に開けてきた展望を羨しみながら登り、樹林に入り尾根に登って左をとると、この尾根にもブナ林が続いていた。笹原になり、明るく広がる笹原と渾水の向こうに綿向山山頂の杉が望めた。今日はここまで、この先の登こきは次回の実績にして下る。

倒れた笹原の下りは早い。一気に下ってブナの木平でゆっくり昼食にする。922(ピーク)から右に下ると、樹林の中にトリカブトの紫の花が続き、樹林を出ると大ガレの上に着いた。南に展望が開け、南に延びる尾根は植林に覆われた栗原山の山腹へと続いていた。その先には、南鈴鹿の山並みが青の濃淡で続いていた。大ガレの下谷には砂防ダムが、その横には林道が望めた。ガレに沿って急斜面を下ると、湖穴の中にけもの道がはっきりと続いた。切り開きながら下ると、右斜面は雑木と樹の腹になり、左の雑木の中を下ると尾根には踏み跡が続いた。いったん下って登り返し、緩い下りから登りつめ、植林の尾根を左折して植林の端目の急斜面を下る。フェンスが現れ、下刈りして樹と杉を植林した明るい斜面が広がっていた。南に大きく展望が開け、右下の山腹に作業小屋が望めた。右に



關中八代秋津州の道行近略図



③ スイセン塚・欽火山口神社(公館)



欽火山口神社
を回って約2
、熱明寺の
前から天神社
を抜けていく
とスイセン塚
がある。江戸
時代には燈籠
塚とされていた古式の前方後円墳である。

さらに欽傍山(西山)を南へ行くくと欽火山口神社がある。標原神宮の拡張事業で山頂から現在地へ強制移転させられた。大和六山神社に比定される由緒深い旧郷社である。

④ 安寧陵(宮田町)

山口神社から欽傍山(西南麓)へ回ると、大きな前方後円墳が欽傍山に面して横たわる。欽傍山の周辺には大谷井・御陰井など八井戸があったといわれ、御陰の地にあるので三代安寧天皇の御陰井に陵に治定される。安寧天皇の浮穴宮は、6ヶ北の高田市片麻町の多久由乎神社境内が伝承地で、天皇制を批判する高麗書に放火され消失した神

社は、最近新築された。

⑤ 懿徳陵(西山北町)

安寧陵から五分ほどは欽傍山(南麓)へ回ると、欽傍山(西山)の北麓の正面に、
「古中記」では「欽火山(古)千谷上に在り」とあるが、欽傍山(西山)にイトクモリ古墳があり塚上に池田神社がある。

懿徳陵から南東へ高取川沿いに、間寺の手の前の標原神宮の北端に懿徳天皇の御の血跡宮伝承地がある。ユースの都合で懿徳陵から東へ、孝元陵へと、福原神宮の南を抜けて石川池を目指す。

⑥ 孝元陵(石川町)

剣池ともいう石川池に小島島のように突き出た岡の上が剣池(池)上陵で、御陵の東と南側は新興住宅地が広がり以前の景観はない。北と西側からは広々とした水面を取り入れた浮島のような御陵の眺めが美しい。

孝元陵から西南の大町町へ入ると、応神天皇の御島、明宮神と神寺跡がある。旧下ノ道を南へ行くと、墳丘の長さ318尺の丸山古墳が横たわる。岡寺町の北側から踏切を渡り高取川の高取川左岸にでる。

⑦ 孝元・懿徳天皇の宮(白雲寺)

岡寺町西側の低い岡は、第八代孝元天皇の大野の原宮伝承地とされ、牟佐坐神社には高麗書に神と孝元天皇が祭られてある。

標原神宮から再び高取川右岸へと渡り、懿徳天皇の御の曲球宮跡までは1分ほどで行ける。高取川沿いに東北へ進み標原橋を渡り島池の東側へでると、池に囲まれた宣化陵が浮島のように見える。

曲球宮跡から益田池遺跡を経て千原資料館までは、余り、川西バス停から留我川沿いに南下し御所町の郡界橋まで2分。

⑧ 孝安陵(御所市玉手)



孝安天皇玉手丘上陵
郡界橋から
旧上村の
植原・東寺田
の大字を西へ
と進み、玉手
の春日神社か
ら玉手丘に上
ると、第六
代孝安天皇の
玉手丘上陵が

ある。御陵から西へ下ると護国寺の境内へ入り、西南へ行くと池之内の北はすれの畑に、第五代孝安天皇の横上の池心宮の跡、さらに西南へ1ヶの室の大塚の東側、八幡神社の境内に、孝安天皇の秋津鳴宮の石碑が立っている。徒歩時間がないので孝安陵から春日神社へ戻り玉手丘の南側へ行く。

⑨ 孝昭陵(御所市三ツ)

玉手丘からJR和歌山線南側の道を西へ蛇穴の堀廻橋を渡り、御所高校の南から西南への道をたどると、孝昭陵までである。孝昭天皇の横上の博多山上陵は孝安陵と「記紀」の記述が同じであるが、孝安記には推古後三十八年目に葬るとある。

孝昭陵から北へ御所町町の八ヶ敷上に鎮座する式内の名神大社、旧皇社の鴨部波神社に参拝して、近鉄・JRとも御所駅まで1ヶ、30分もあれば行ける。

石上神宮から大和神社へ

松永恵一

石上の神々

大和には往古すべき古代の社がきわめて多い。「萬葉集」に「神社・社」の字が「もり」と読まれ、「出雲国風土記」に「樹林あり、此は即ち神社なり」と記されたのもうかがわれるように、「神社」・「社」は聖なる森や森林を意味した。

神や精霊の降臨を巨石や巨樹に仰いだ人たちは、靈岩を磐座、聖なる石群で限られた結界を築造とよび、神聖な樹木を神籬と称した。いずれもが神社建築に先行する領域であり、聖地であった。

現在もおお木殿のない神社がある。その代表的な社が桜井市三輪に鎮座する大神神社である。秀麗なる三輪山そのものが、神としてあがめられてきた。

究め、賊軍を打ちける。この劍は起死回生の呪力を持ったタマフリの呪具であった。祭神の一つの布留御魂は、健甕日命が天降る時に持ってきた十種の呪玉。これを一、二、三・・・九、十の唱えごととともに、打ち振ると、死人も蘇生するという。

須佐之男命が八坂大蛇を斬った十靈劍・天羽羽斬劍は、布都斯御魂として祀られている。

神宝類には刀劍が多く含まれ、あたかも兵器庫のような観を呈したが、これらの呪宝の本来の目的は、タマフリの呪術にあった。古来、布留は「振」と記され、石上の地はミタマフリ(御魂)の鎮座の聖地であった。タマフリの呪術は、逆雑霊魂を招き返して、体の中に鎮め、健康の回復を図る呪術。

劍身の左右に二本の枝刃を交互に作り出した特異な形状の鉄劍・七支刀が伝世された。金粟殿の銘文を刻む。「泰和四年(906)に百濟王世子が後王のために造ったものである」と解釈されている。「日本書紀」神功紀五十二年に記されている、百濟から献上された七支刀に該当するものと考えられている。「日の御盾」と称する鉄製の盾二面も伝世した。

おおよまよ

天理市布留に鎮座する石上神宮も、もとは本殿がなかった。大正二年(1913)に本殿が完成して現在の姿となった。永保元年(1081)白河天皇が大内裏の神祇殿を移築させたと伝える排殿の後方に「布留社」と刻む剣先形の石製瑞垣に囲まれた地がある。古来、神劍部が鎮まっていたと伝え、禁足の霊区として畏敬されてきた。明治になって調査がなされ、神劍とともに多数の玉類が出土した。神本人麻呂は詠う。

をとめらが 袖布留山の 瑞垣の 久しき時ゆ 思ひき我は

おとめが袖を振る、その布留山の瑞垣が大昔からあるように、ずっとむかしからの娘のこころを鎮めていたと、わたしは。

小野小町と僧正遍昭
「後撰集」兼三は一人の歌を伝える。

石上といふ寺にまうでて、日のくれにければ、夜あけてまかりかへらむととどまりて、この寺に遍昭侍りと人のつげ侍りければ、ものいひ心見むとていひ侍りける

小野小町
いはの上に 旅寝をすれば いとさむし 昔の衣を 我にかさなむ

返し
世をそむく 昔の衣は ただひとへ かさねばうとし いさふたりねん

遍昭
遍昭が仁明帝の御剣を機に出家して姿を消したと噂で聞いてはいたが、ここ石上寺でお目にかかるのも奇蹟、ではひとつその修行ぶりややらを試してみよう。

日が暮れて岩の上に旅寝をして居りますと寒さが大層身にしみます。お坊様、どうかあなたの僧衣を一晚私に貸して下さいな。この世を厭うて仏道修行に励む身ゆえ、衣服とて今この身にまとうている僧衣しか持ち合わせていない次第。さればとて、他ならぬあなたに貸さないとならば、それは他人行儀というもの。いっそのことこの一枚の僧衣に二人一緒に伏してみては。

参道の左手に歌碑がたたえらる。『延喜式』では、石上坐布留御魂神社と呼ばれるが、『日本書紀』では神宮と称され、格別の扱いを受けてきた。祭神の神劍部靈は、『古事記』の中つ巻に記す、神武帝の一行が熊野で荒ぶる神の難に遭い、失神した時、高天原から建御雷神によって投げ降ろされた楯刀。この霊劍の降下と、これを授けられた熊野の土臺高倉下の献上により、天皇および皇軍は、みな失神より

布留社(石上神宮)『大和名所四会』



布留の滝(熊野の滝)
布留の滝は、熊野の滝とも呼ばれる。落差約20段。巨石に飛び散るしぶきは涼やか。降仏殿で跡形もなく廃絶した電燈塔の行場であった。滝壺の左手前の岩に、不動三尊像が彫られている。鎌倉時代のもの。

「仁相帝」親王におはしましける時、布留の滝御魂を心とておはしましける」と、『古今集』巻第四・秋歌上248の詞書は伝える。

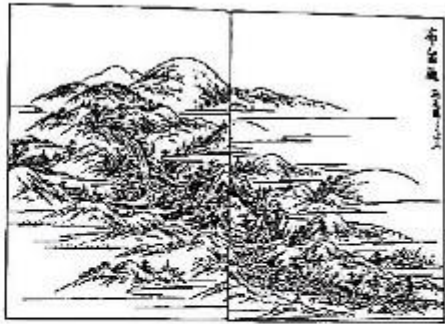
清少納言は「枕草子」『滝は』の条に記した。「布留の滝は、法皇の御覧じにおはしましけむこそ、めでたけれ」と。

謡曲「布留」の詞書に「かゝる盆地に、そのかみ、布留の滝つ瀬いさぎよき、水酒々として、涼々たりとかや」とある。

貞享五年(1688)4月11日、奈良を去った芭蕉は石上神宮などを参拝し、大和八木に一宿、布留の滝を名物している。伊賀の靈地に宛てた書簡が残る。

「布留の社に詣、神村など拝みて、声ばかりこそ苦なりけれと、説し時月の此にへなりけるとおもしらくて流山に寄る。帝の御覧に入りたる事、古今集に侍れば、猶なつかしきまゝに二十五丁わけのほる。滝のけしき言葉なし」

参道の左手に歌碑がたたえらる。『延喜式』では、石上坐布留御魂神社と呼ばれるが、『日本書紀』では神宮と称され、格別の扱いを受けてきた。祭神の神劍部靈は、『古事記』の中つ巻に記す、神武帝の一行が熊野で荒ぶる神の難に遭い、失神した時、高天原から建御雷神によって投げ降ろされた楯刀。この霊劍の降下と、これを授けられた熊野の土臺高倉下の献上により、天皇および皇軍は、みな失神より



布留池 (赤尾の滝) 『大和名所図会』

コース概観

今回のコースは、うっそうとした森の中に鎮まる石上神宮から山ノ辺の道を西進し、果樹園の中の小径を歩き、環濠集落として名高い竹之内・養生の集落から、ヤマトの地名が生まれた大和神社へと足をのびす。神々と古泉と環濠と石仏に彩られた神話と伝説の道、山ノ辺の道をたどるおすすめのコースである。



石上神宮から大和神社付近略図

集落の北東山麓、十一番社から東へしばらく登った地点から銅鑪が出土している。みかん、柿など果樹園の道を通り養生の集落へと入る。西山塚古墳の濠の水辺に黒い瓦の民家が並び、なんとも古えな懐かしい風情が漂っている。『史料通信叢誌』は記す。「地上高く隆起せるもの昔古墳(縣)俗に養生干塚と称す」と。

養生から西に下って環濠を渡ると、常緑樹のこんもりとした森に一つままれた旧巨磨大社大和神社。祭神は饒大國魂大神。『日本書紀』崇神紀六年に、倭國が統くので宮中に祀られていた天照大神を笠縫田に移した時、同じく宮中に祀られていたこの神を笠縫田入地に託けて市磯田に移し祀らせたが、「笠縫田を休養して祭ること能はず」と、大和の神の靈威を物語る伝承

「長狭井線・近鉄天理線の天理駅で下車。東に向かい、奈良市下徳長という約1kmのアーケードを通り抜ける。右手、南正面に環濠。左手に天理教教本部の巨大な神殿が並ぶ。天理教は天保九年(1838)、この地の農婦中山ミキによって開かれた神道系の新興宗教。かつて丹波市と呼ばれた町は、天理教の町として賑わっている。

世界各地の民俗・考古・美術資料などを展示する天理大学附属大和博物館や、国宝や重要文化財に指定された貝書書を多数所蔵する天理図書館がある。

さらに東に進むと布留町に入る。交差点の東北角の敷出神社境内の良因寺塔碑に、小町と廻廊の鐘の歌が刻まれている。赤尾の流は布留川に沿って登る。

交差点を右に折れると石上神宮。布留川のほとり、深い杉木立に囲まれた畑の飛騨境内は、神代の家門が漂っている。内山永久寺の鎮守であった住吉社の拝殿が、概社山築建神社の拝殿として残る。

天然記念物フタカが住む鏡池のわきから南に出て山ノ辺の道をたどる。木堂の集落を過ぎ、道筋下のトンネルをくぐって進むと、内山永久寺跡の大きな池が見えてくる。永公二年(1114)に開削された跡で創

が残る。この神社が大和の地名の語源となった。『延喜式』の「大和に坐す大國魂神社」である。戦後「大和」には、この神社の分霊が祀られていた。

4月1日、大和に春を告げる「ちのちやん祭り」の渡御行列が、うららかな春の陽をあびながらまっすぐ東へ上り、山ノ辺の道で南に折れて中山のお産所(大和担持神社)まで、逆季節の畦道を賑やかに機って行く。

大和神社から北へと進めると「三抹山町」。天理教の教祖中山ミキの生家前山家が残る。教祖誕生地・天理教三抹田教会。上つ道を天理へと向かう。通称常現社に藤の柳があり、芭蕉の句碑が立っている。正面に「芭蕉翁の跡」。右側面に、句を刻む。芭蕉が泊まるころの花

建され、隆盛を誇った。江戸時代には興福寺・東大寺・法隆寺に次ぐ信仰をうけ、参拝者が絶えなかったというが、慶応義塾の嵐にあえなく廃寺。芭蕉の句碑がある。うち山や外縁しらすの花

神柳がひろがる道を上り下りし、石段の急な坂道を駆け下りると同原の集落。広い自動車道に出て右折し、ゆるやかな下りの道を歩く。道標に従い、左に折れて素朴な野の道に入る。前方後円墳の西栗藪古墳と東栗藪古墳を右の首級に見ながら下る。

道は式内社後醍醐神社の鎮をこの字に巻く。西へまっすぐのびる田の中の道に、赤い二の鳥居が立つ。薄暗い境内に入母屋造り重層の拝殿。春日の四神を祀る。

美しい家並みの乙木の集落の中を西へ振り、環濠集落の竹之内へと向かう。環濠境内とも呼ばれる集落は山ノ辺の道から東に少し入る。海拔100mの地に位置するこの集落の濠は、県下最長所にあるものとしてよく知られていたが、いまは集落の入り口を公園にして、濠の名残を遺民池として残す。環濠集落の記憶は、中世のころ戦乱から村を守るために水濠をめぐらし、その内側を竹藪にして自衛したとか、瀬川のためとか言われる。

文化十一年(1818)春に三津の支那の写本が立てている。八坂陣現の小祠を後にすると、上つ道は北進し天理駅へと至る。静かに澄んだ空気の中に、沈み花の微かな香りが漂って、誰よりも早く季節の移るいを味わった旅も終わる。

《コースタイム》
近鉄難波駅⇨近鉄天理駅 650円
《地形回》 2万5千⇨大和郡山・桜井
《問い合わせ先》

天理大学附属天理博物館 07436(3) 1510
石上神宮 07436(2) 0900
大和神社 07438(8) 0044
天理市向上新元集落 07436(3) 1001

近鉄難波駅⇨近鉄天理駅 650円
《地形回》 2万5千⇨大和郡山・桜井
《問い合わせ先》
天理大学附属天理博物館 07436(3) 1510
石上神宮 07436(2) 0900
大和神社 07438(8) 0044
天理市向上新元集落 07436(3) 1001

2等三角点のある山

城ヶ峯と飯盛山・大筒ヶ峯

初級コース(★)

山形 歳之

城ヶ峯

和歌山市の東、紀ノ川の南の山塊の一つに2等三角点を持つ城ヶ峯(255・44)がある。

JR和歌山線の布施駅(布施)から、東西に延びる道を標高の集落をめざす。奥路の入り口から折折して城ヶ峯の西麓の高積神社に



城ヶ峯付近地図

登山道は神社の前を過ぎた北側で、ここを高積山周辺の案内板が立っている。神社の周辺には駐車場が無い。通りがかりの地元の人、四輪駆動車なら終点の石段の所まで登れると教えてくれる。林道はコンクリート打ちされているが急坂で、狭くて曲がりくねり、両側の草をすり抜けて走ることになる。終点は石畳の階段で、わずかな回転場所にかかるように駐車する。ここで七合目くらいまで登ったことになる。

すでに加れかけている階段から登る。高積山の頂上神社への参道なので、手入れはされていないが古道を思わせる。ひと登りで神社の境内に入る。高積山の神社は麓の神社の奥宮らしいが、随より立派な建物が建っていて、山上の方が本宮かも知れない。

城ヶ峯へは、神社境内の入り口に立つ石碑のような自然石の所か、右(南)に登山道が延びている。左側に小さな社が祀られている。稜線を辿る道は、途中に展望の良い所があり、和歌山の町が海まで広がって見える。やがて低い土塁の跡のような盛り土が現れ、被褥依りに延びていて、戻って行く

飯盛山山頂



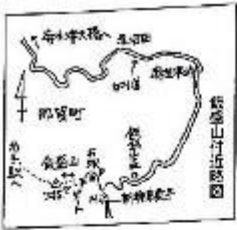
城ヶ峯の頂上に出た。城ヶ峯の名の通り城跡らしく台地状の広場になっている。雑木林に囲まれて展望は無く、三角点の標石は、羽の草むらの木杵の中に設置されている。

▲コースタイム▼
JR布施駅(30分) 高積神社(30分) 林道終点(15分) 高積山神社(15分) 城ヶ峯 ▲地形図▼20万1和歌山 2万5千1丸橋

飯盛山

紀ノ川沿いの国道から見上げる飯盛山(745・77)の稜線には、お城や飯盛山荘の建物が見え、その斜面には農家が点在している。曲道や車道が頂上近くまで延び、登山道も途中まではこれらの道を利用して登ることになる。農道は網の目のように交錯していてわかりづらい。車だつていけるところまで走ってしまい、麻生津峠の急坂で、回転も後車も出来ない狭きに肝を冷やした。

飯盛山荘の前には中型のバスが駐まっています。山へは別の道が通っているらしい。お城の戸は閉ざされ、何か宗教団体の所有らしい。後線の道を鞍部になると、林道は鉄扉に閉ざされており車はここまで。「飯盛山」の道標が立っています。



門の脇から林道を登る。緊急無線のアンテナを建てて飯盛山のピークの所で林道が終わる。後は樹林の急斜面をひと登りで到着する。雑木林の中で展望は無い。

飯盛山管理の石柱と2等の標石、数枚の登頂札がぶら下がる。西の時から名手へ下る道標がとりつけられていた。ほとんどを車で登ってしまったが、名手駅から歩くと一日コースの良い山登りが出来るだろう。

▲コースタイム▼
JR名手駅(2時間) 麻生津峠(40分) お城(20分) 飯盛山 ▲地形図▼20万1和歌山 2万5千1龍門山

大筒ヶ峯

JR和歌山線妙寺駅から紀ノ川を三谷橋で渡る。南へ峠を越して上天野の丹生郡比売神社の駐車場に車を駐める。この神社はなかなか立派な社殿があり、庭の赤い太鼓橋にひとときまじりを見られる。今来た車道を200mばかり戻ると、右側に「六本杉・高野山」の案内板が立っていて、ここが登山口になる。この高野山町石道に通ずる道は程も広く、よく整備されていて



積まれている

林の中を登って行く。20分程で六本杉である。

ここで九度山から来る高野山町石道に合流する。南へ山腹を登り高野山町石道はさすがに歩きやすく、一丁目ごとに立つ3枚くらいもある丁目石も、高野山の勢力を感じさせる。

地形図と現地の地形をよく見て、「百三十町」の石柱を過ぎた辺りの登りやすそうなお所から稜線に向かって直登する。10分程で稜線に出ると、そのまま頂上に向かう。道跡は無いがそれ程の藪でもないで簡単に山頂に着いた。

自然の板石が台座のように積まれた奥に、6層の古燈籠が建っていた。四隅の欠けた礎石が収まっていたが、全く展望の無い林の中である。

大筒ヶ峯(683・1)は点名で、地形図には山名の記入は無く、標高のみが記入されている。高野山町石道行の時にでも立ち寄らばいいかがですが。

▲コースタイム▼
丹生郡比売神社(30分) 六本杉(15分) 百三十町石柱(15分) 大筒ヶ峯 ▲地形図▼20万1和歌山 2万5千1橋本

方丈記と醍醐修験行場道ハイフ

鴨長明庵跡から醍醐

中級コース (★★★) 遊津 米男

京都の東南に位置する醍醐界隈には、古い竹まいを残した集落や寺社、花の名所などが数多くあるが、まだまだ訪れる人は少ない。その中の、鴨長明が「方丈記」を編んだとされる庵跡から西国三十二ヶ所観音霊場第十一番札所の上醍醐准庵堂を経て、太閤秀吉の花見で有名な桜の名所、醍醐寺を巡る。

石口バス停から東へ約1km、古い家並みと新興住宅の入り混じった日野の里に石く。安産や乳の出をよくすると信仰を集めている葉師如実が祀られていることから、「日野のお葉師さん」と呼ばれている法界寺がある。この寺の阿弥陀堂と本尊阿弥陀如来座像は国宝である。1月14日夜、拝詣りの

奇祭が伝えられている。法界寺の後方には、親鸞上人の生誕地、日野の親生院がある。コースは日野葉師を右に見て日野集落を通過、鴨長明「方丈記」庵跡へと向かう。道標に従い供水峠への登山口から右奥に300mほど行くと、眼前に巨大な岩が雄姿する「方丈石」庵跡に到着する。ここで学校で暗誦させられた「方丈記」の一節、「ゆく河の流れは絶えずしてしかもちとの水にあらず……」と語らしてみるのが一興だろう。

元の道に戻り、松林の中の荒れた山道を登る。やがて雑木林に入り、木の間越しに六地藏の町並みが望める。支線線に乗り、日野岳への分岐を過ぎ、明るい広場に達し、左の岩樹と右奥のお堂の中には、無数のお地蔵様が祀られている。岩樹に二休、江戸末期の「ちよんまげに紋付き姿」のお地蔵様もある。奥の祠には清水が湧き出している。

ここから300mほど登ると供水峠、河の変容もない峠だが、山道の所々に石垣が残っているのは、往年の街並の名残だろうか。峠からクマザサをかき分けて下り、雑木林から杉植林帯に入ると、まもなく上辰山集落である。清水峠など京楽園芸作家達が、



3等三角点に達する。雑木林越しに東西の笠取集落と滋賀南部の山並みが見える。二交路まで戻り、尾根上を急降下すると出合いである。右折し、ロープの張られた急降下道を行くと奥街道の入り口、この先には「岩樹屋」「覗き道」などがある。

紹介するコースは出合いで左折、「行者道の渡り庭下」を進む。右前方に京都国際ゴルフ場、赤白の高圧鉄塔の立つ千頭岳

(600m)を望む。右に「役の行者」を浮き彫りにした道標がある。ここを右折して下ると西国13番札所若間寺へ行く。コースはそのまき植林の中の行場道を進み、上醍醐頂上の開山堂・如意輪堂前に飛び出す。このあたりは醍醐寺から登ってきた人達が大好き。

溝淵峠への道を右に見送り、葉師堂を回り、11番札所准庵堂下の寺務所の門をくぐり、寺務所の壁に沿って下る。裏庭を通過し志津川の源流に出る。輪の巨木のう。そうして茂る鬱蒼とした中道参道をゆっくり楽しみながら下ると、立派な木道がある。さらに中道を下ると奥街道と合流し、往路を歩き水鏡谷の橋に出る。橋の手前で志津川を渡り、溪谷道に入る。植林の中、溪谷を左右に渡渉して進むうちに山道となり、「ユウレイ峠」に着く。

ここからは通称「牛道」という醍醐ユリ道を歩く。往年の牛道だけあって、所々に苔むした立派な石垣が残っている。左前方に京都南部の市街地が広がっている。割木峠を過ぎると表参道五丁目、太閤秀吉花尾御殿の跡・増山である。表参道に



町中では上り窯から出る煙を嫌われ、集団移住した陶芸村である。寺木工芸家や染師、色家なども集まり、芸術村法界となつている。集落を通り杉植林の中の地道を進む。

志津川の堰堤から水鏡谷(通称「龍窟中道」)に入り、鎖を使った橋を渡り志津川沿いに行くと、欄干付きの丸木橋がある。もうここは醍醐寺の境内である。

上醍醐修験回参行場観音が始まる。距離は短い岩場と急登、まずは観場の男坂と迂回路の女坂である。どちらを通っても同の立つ広場に出る。展望が開け、眼下に宇治の山々と炭山の集落、前方には上醍醐寺務所・開山堂・如意輪堂等の霊が望める。急登に急登を繰り返して支線線に乗り、釜ヶ広がる展望に助けられ、雑木林の線線に入り二交路に出る。さらに被褥を南下し、コブを三つ乗り越して、堂ヶ寺476・1層

合流し女人堂前が出る。

醍醐寺の五重塔と金堂は、ともに国宝で一見の価値あり。高さ約38mの五重塔は、天曆五年(951)に落慶した京都最古の建築で、均整のとれたスタイルが美しい。その北側、金堂は秀吉が紀州の蒲願寺から移した平安末期の建物。満開の枝垂桜を待たせて、この山行のフィナーレを飾ってくれることだろう。

△コースタイム▽

- 石口バス停(10分) 日野法界寺(20分) 鴨長明庵跡(40分) 石仏群(10分) 供水峠(30分) 上辰山(30分) 水鏡谷(10分) 奥聖壇(1時間) 堂ヶ寺476・1層(40分) 回参行場道・上醍醐頂上(30分) 水鏡谷(30分) ユウレイ峠(1時間) 牛道を経て表参道五丁目(30分) 醍醐三門・三寶院バス停

△地形図▽2万5千：京都東南部 *4月の第2日曜日には太閤花見行列が開催される。 *上醍醐修験回参行場参道は、3月と12月の第1日曜日に山崎頼輝が一般に開放されている(午前10時に観音山頂上、開山堂に集合)。

忘れられた古道

九重越

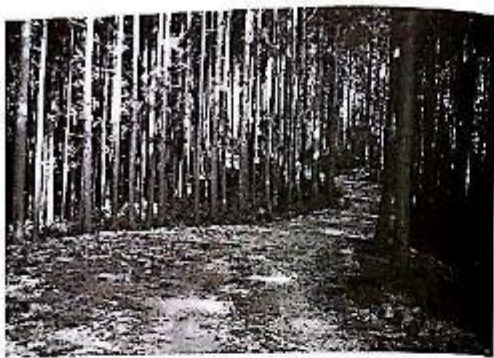
くじゅうこえ
中級コース(★★★)

柴田 昭彦

「関西山越の古道(上)」(ナカニヤ出版)には、九重越のルートを、現在の大坂府河内長野市加賀田から五ツ辻を経て、和歌山県橋本市山田へ至るものと考え、阿弥陀山の東側の道を九重越と推定している。

しかし、江戸時代と明治前期の「河内国絵図」と地誌などを調べてみると、九重越について、次のようなことが判明した。
・九重越は、紀州九重村へ出る高野道である。

・岩瀬山は、「紀州九重峠の西界」である。
・九重峠は、流畑村にある。
・九重峠は、加賀田峠とも呼ばれていた。
・九重越の道程は、次の通りである。
上田(20町) 加賀田(20町) 岩瀬山口の分



五葉ノ谷辻(九重峠と推定される地点)



登り口で、深流を越えて小道を登って行く。谷道をたどり、急坂を登りきると尾根道に入る。二つ目の石標が立つ605m地点付近は、旧九重越の上端らしいが、今では道の痕跡もない。登り道はカーブを描き、雑大林の中へ入っていく。尾根道を行くと、レンガ造りの徳豆蔵製塩の跡地がある。まもなく五ツ辻に出る。右へ道をたれば岩瀬山へ往復1時間である。直進して相互タラシ(岩瀬山)植林地の看板の左側の五葉ノ谷道へ入る。水平に終面をへたりながら10分程歩くと、林道と出会う。ここが五葉ノ谷辻であり、九重峠と推定される所である。右へ曲がって少し歩くと、左手に和歌山県方面が展望できる。正しく、境界であることがわかる。

峠から20分位で林道分岐である。左の林道を下る。途中で左折して進むと鋪装林道に出会う。右へ曲がる。道はカーブして下り、上り道が現れると札ノ辻である。左手に山田への地道があるが、九重へは辻の左手の右手にある小道をたどる。道は左へ回り込んで谷へ入る。上流は河原をたどり、やがて右岸の踏み跡を歩く。2分程で、崩土と湧水のため道の途切れる所に着く。手前で河原へ降りて、別道地を避けて足元に注意しながら下る。河原から再び右岸の道へ戻って進む。やがて、高野口町九重に出る。道は左岸へ移り、右手に千田橋を見下ろす。次の右手の橋を渡って坂を上がると妙興寺がある。元の道へ戻ると6分程で道路改修碑があり、下の右への分岐を通り暗いの池を見る。少し下ると信太神社で、推定延暦四年の遷座は、見えたえがある。神社から道をまっすぐ下り信太小学校を過ぎたあと、広域農道を横断して松尾台地へ入る。ミカン・カキ園が広がり、パノラマ園遊が楽しめる。途中で右手に子安地蔵尊への参拝道があるので寄って行こう。お堂からの下りは左手へ小道をたどり、分岐で左へ、次は右へ行くとも道に出る。右手に地蔵を見ると橋へ出る。渡って左折し、

峠(20町) 九重峠(20町) 九重村
(1町10段、1里13町約々)

以上のような記載をもとにして、明治四一年測量の三万分の1地形図「五條」と、昭和七年測量の二万五千分の1地形図「岩瀬山」の中に、「九重越」のルートをたててみると、五葉ノ谷が旧遊畑村に属するのだから、加賀田中ノ谷(五ツ辻)五葉ノ谷(札ノ辻)九重、と推定できる。従って、九重峠とは、阿弥陀山の南にある五葉ノ谷辻と推定される。

さて、中ノ谷から五ツ辻に至るルートは、途中まで河床をつめて通れるが、現在の地形図の605m地点の西側800mの長さの急峻な谷が崩土のため通行できず、崖道となっている。昭和七年の地形図には、中ノ谷道と605m地点付近で合流する橋谷道が記されている。現在、このルートをたどって五ツ辻へ出ることができるので、今回、「この「新九重越」を紹介することにしよう。

河内長野駅前南西バス六番のりばより8時10分発(日曜、平日は8時発)の神統行きのバスに乗り、終点を降りる。水車を見るなら、一つ手前の遊畑内で降りてもよい。神納バス停で右の内見橋を渡り、伝大江時

九重越古道(長尾の尾根道)



親御峠を過ぎて40分程歩くと、「名勝岩瀬山」の石標の立つ分岐があり、右の道を少し行くと河内河原分岐である。左の流谷林道へ入り、5分程で、新谷線の旧道が右手にあるが見送り、少し先のコンクリート舗装の新入り口から入る。新谷林道の左側の深流にはいくつもの小滝があり、気持ち良く歩ける。やがて舗装が切れて、80分程先の石標の木にテープの印がある。ここが

高野口公園への入り口の朱塗りの桜橋で右へ曲がる。左へ迂回して橋りを渡り、右折すれば高野口駅に着く。

(平成7年11月3日・12日歩く)

▲コースタイム▼

神納バス停(40分) 行司河原分岐(25分) 登り口(1時間5分) 五ノ辻(10分) 五葉ノ谷辻(20分) 林道分岐(35分) 札ノ辻(45分) 九重(千田橋)(25分) 高野神社(40分) 子安地蔵尊(30分) J.R高野口駅 ▲地形図▼2万5千1高野山・岩湧山 昭文社II「53金剛山・岩湧山」

参考

「河内国絵図」に記載された「九重越」
 ▲坂口図▼
 ・宝永八年(1708)「河内国絵図」(林孝雄著)
 錦部郡加賀田村と紀伊国九重村を結ぶ道
 九重越(長い小径)高野道
 ・安永五年(1776)「増補改正河内細見図」(大図)
 加賀田―九重越

紀州越(加賀田エ一里十二丁)
 ・享和二年(1802)「河内国細見小図」(小図)
 かゞ田―九重越
 紀州池(加賀田エ一里十二丁)

・小図は、安永五年版(大図)の縮図再版であるが、注記の誤刻が多く、「龍」は明らかに誤りである。(つらゆり)
 ・明治三三(1870)「増補改正河内国細見図」九重越 自「加賀田」至「紀伊国界」一里十七町

▲千早図▼

・正保元年(1644)「正保国絵図 河内」(内閣文庫蔵、江戸初期の写し)
 九重越 九世村(出)
 是ヨリ加賀田村マデ十九町
 是ヨリ峠止三町 牛馬道ナシ
 (是止瀬山口の分岐)
 ・慶安(寛文四年(1648)64)頃「河内国絵図」
 (上原英次氏蔵、羽曳野市史蹟資料館)
 九重越 河州国境(紀州九重村)迄廿六町
 岩湧山口ノ分途ヲ峠止三町牛馬道無
 ・寛文十二年(1672)「河内国絵図」(三田孝氏蔵、柏原市史蹟資料館)

九重越 河内国界ヨリ紀伊国九重村マデ廿六丁 岩湧山口ノ分途ヨリ峠マデ三丁 牛馬道無
 ・寛延二年(1749)「河内国地図」(内閣文庫蔵)

紀州伊都郡界即チ九重越 九重村ニ出。
 高野路ナリ 国界ヨリ加賀田マデ一里六町
 国界ヨリ内加賀田ヲ経テ上田村ニ入ル二里一町
 ・宝暦四年(1754)「上河内国地図」(内閣文庫蔵)

九重越 高野路
 九重越ヲ越テ九重村ニ至ル
 九重越ノ北也 此ノ河州ノ地也
 ・宝暦四十九年(1754)5「河内国地図」(内閣文庫蔵)
 九重越 九重(出) 高野路也
 ・宝暦五年(1755)「河内国地図」(内閣文庫蔵)
 九重越 国界ヨリ紀州九重村ニ至ル
 一里ノ岩湧山口ノ分途ヨリ峠ニ至ルマデ二十三町 牛馬道無
 峠ヨリ上田マデ一里一町
 此ノ岩湧山ハ紀州九重越ノ西界也

地誌などに記載された「九重越」

・享保二十年(1735)「河内志」(並河永春「日本輿地勝覧」)
 九重越 紀州伊都郡界 至「加賀田」一里十七町加賀田至「上田」二十町
 ・享和元年(1801)「河内名所図会」(秋田野郎著)
 (秋田野郎著)
 加賀田村の南にあり。
 当山、紀州九重越の西界なり。
 ・明治十五年(1882)「大阪府管内地誌」(巻之三)河内国(阪泉堂編輯)
 九重越 紀伊見道ハ、天見村ノ南ニ在リ、紀伊ノ界ニ連ス
 ・明治二十年(1887)「大阪府管内地誌略」(巻之三)河内国(小笠原孝著)
 九重越一名橋上嶺及ヒ九重嶺ハ瀬畑村ニアリ、岩湧山ノ接線ニシテ共ニ高野ナリ

・明治三十五年(1902)「帝國地名大辞典」(宮本時次郎編、山谷百三十三)

九重越 大阪府河内国河内郡の南端に在り、和歌山県紀伊郡御郡境に接す、登行河内郡加賀田村大字加賀田より一里十七町

・明治三十九年(1906)「日本山嶺辞書」(高野式「高野山」著)
 九重越 河内国河内郡紀伊郡界に在り、西河内郡加賀田村大字加賀田ヨリ一里十七町ニシテ其山頂ニ連ス
 ・大正十一年(1922)「大阪府全志巻之四」(井上正雄著)

当国(河内国)の南端にして岩湧山は紀州九重越の西界にあり、岩湧山立山勢湧出せるが如し、故に此の名あり。



最新刊 / 定価1500円

関西周辺山と地酒の旅

坂倉登喜子 / 小川清美

低山ハイキングを楽しんだあと、その土地の酒蔵を訪ねて地酒を求め、その土地の料理を肴に一杯やめる―これこそ山旅の醍醐味ではないか！ 京都・愛宕山、神戸・六甲山、奈良・二上山、和歌山・高野三山など、魅力の19コースを、八十五歳の現役登山家が案内。新ハイキングで好評連載中。



新潮社
〒102 東京都千代田区外神田
電話 326-1111 ●定価は税込みです

「郡絵図」に記載された「加賀田峠」
 ・天保八年(1837)「河州錦部郡絵図」(大谷登、玉島 河内野市文化財調査報告書) 河内野の古絵図 向市教委、昭和59年(複製)
 かゞ田峠ヲ見坂峠迄登テ
 かゞ田上ミ村ヲ紀州九重村ニ至ル半
 越王峠ヲカゞ田峠迄伍十町一
 滝ノ廻村ヲ紀州大畑村ニ至ル
 * かゞ田峠ハ九重越、見坂峠ハ紀伊見

お知らせ
 左記広告の「関西周辺山と地酒の旅」は新ハイキング関西でも取り扱います。ご希望の方は(本代)500円+送料800円(合計1300円)を雑誌挿入の振替用紙で送金ください。折り返し送本致します。

ポカラから ジヨムソンとムクチナート (第2回)

山形 歳之

(5日) 朝、快晴、寒い。温度計は0度を示していた。
アンナプルナの1峰が朝日を受けてぎんぎんに輝いている。山は朝日を受けるとすぐに激しい雪崩を巻き上げる。ヒマラヤの山だと実感させられる一瞬だ。急いでカメラを手を走る。

私たちがテントを出るとすぐに片づけられて、どこに泊まっていたのかポーラー達が集まってくる。シェルパやキッチンポーターは、食事前のテントや炊事場に泊まって我々と同じに食事をしているが、ポーラーは全く別で、泊まりも食事も自前である。また、私達とは全く話をしないし、避けているように感じられる。現地人のシェルパ達ともあまり接触しない。どうやらインドのカーズト制度と同じく身分の違いがあるようだ。

出発前に隊員が初めて紹介される。隊長はK.P.A. 50歳くらいで、日本語を話すおとなしそうな男。次はコック長でその下にシェルパがいる。警隊長と親族関係にあり、シェルパはシェルパ、キッチンポーターはキッチンと世襲らしく、勝手に職を変えられないという。

朝食が済むとすぐ出発する。ゆっくり登って尾根の上に出る。こんな山の上とは思われる所に茶店が点在する。考えてみればこの道は日本の東海道みたいなもので、茶店は宿屋と兼業だから道々に宿場があつてあたりまえだ。

パンタンチに到着すると、ポカラでは曇り空で見られなかったマチャプチャレの頭を出していた。ポカラからは一つの尖峰に見えるそうだが、ここでは双峰になっている。それにしても向と鋭く屹立している。

いて何十軒ものロッジがかたまっている。

今日はテント場に雪が積もっている。ロッジ泊まりとなる。「ニュー・マウンテン・ビュー・ロッジ」と大層な名前だが、トタン張りの二階建てのバラック(小屋)である。それでも食堂には椅子・テーブルがあり、土で固めたストーブに火を入れてくれたので温かかった。

いつも到着時に出る温かいジュース(粉末)を大きなコップ一杯飲むと、心身ともに温まった。

食事は例によってジャガイモとカリフラワーの煮付け・ナン・酢キチャツ。

ゴラバニ峠の展望は平吉に思いがたいほど。正面にアンナプルナの峰々が水を突き、それに続くアンナプルナの峰々が水の壁を連ねる。左手にはタウラキリからチュクチュの山々が巨大な水の壁を見せている。

ネパールのポカラ方面のトレッキングは、ここがメインになっていて、大半がここから来るコースなのもうなづける。

昼食後、時のピーク、ブーヒルに登る。はっきりした道があるが、昨夜の雪がいっぱい積もっている。約1時間くらいで3191mの山頂に着いた。山頂には展望台が造られていて、すばらしい展望が得られ

トレッキングのひと休み



ことが。

ゆるい登り下りを繰り返しながら徐々に高度を上げて行く。料要わずらずロバ隊がやって来る。荷物はジャガイモや穀類などの食料が主で、灯油のポリタンクもあり、街道沿いの宿場の家々に荷を下ろしていく。村にはロバ隊用の宿もあり、テラスに沢山口バが繋がれている。

バラバラとトレッカーが降りて来る。意外と女性が多く、カナダ・ドイツ・オース

る。

ゴラバニ峠では見えなかったマチャプチャレが、双峰の尻尾を鋭く突出させている。アンナプルナー1峰(最高峰)もハッキリと頭を出している。もちろん前面いっぱいにはアンナプルナ・サウスが、激しく雪連を巻き上げていた。西にはタウラキリが巨大な雪の壁をそり立たせ、凍くチュクチュにながっている。ニルギリも特異な姿を現しているが、少し遠いので他の山々に比べて見やりするのはやむを得ない。

展望台の日溜りではレドカゲを決めこむ。ふと気がつくとグルーブの人達が立ち去って、雪の山々は静寂に包まれていた。立ち上がった見渡すと、広大な景色は徐々に沸き上がる雲に包まれて、ほんの数分の間に巨大な山々は白い雲の海に沈んでいった。やがて白い海は私の周囲にも押し寄せた。すっかりと私を包みこんだ。私は一人で雲の中を白い雪を踏み締めて、ゴラバニ峠に向かった。

この峠でおみやげ屋が店を開いている。こんな奥地の高い山中でとれるのはこちらだけで、彼らにすれば観光地の観光客相手ということかも。USDルや日本円がそのまま通用するのも観光地と全く同じである。



トレッキングの炊事場

トリアなどから集まっている。もちろんわが日本の女性にも出会ったが、我々みたいな団体には出会わなかった。少し抜けたなあと感じる頃、ゴラバニ峠の下の村に到着した。三千軒ばかりの家々はみんなロッジである。明るい南斜面のテラスは暖かそう。昨夜のみぞれはここで雪で、道はドロドロである。ひと登りでゴラバニ峠に着いた。峠の村はここでも全部がロッジになっ



ポーターとロバ隊

峠には日本語で書かれた看板のロッジもあったが、今日は日本人は私達だけのようだ。今夜の泊まりはロッジなので、食事も部屋とする。食後、ストーブを囲んで飲んだラム酒の酔いがまわる。シェルパ達も集まってきて例の小太鼓を叩いて踊りがはじまる。単調なリズムなのだが愉快で賑やか。彼らは全くアルコールを飲んでいないし、私達が踊りを頼んだのでもない。自分

たちで楽しみ、いつまでも騒いでいた。本来が陽気な人達のようにである。

(8日)朝6時、まだ薄暗いうちに起きて夏の朝の露合にカメラを据える。積雪は10センチ、風は無く寒い。

雲一つ無い空にアンナプルナ・サウスが薄曇り佇んでいる。6時50分やっとその頂に朝日が光る。すでに登き上げられていたサウスの猛烈な雪煙は遠くたなびき雲と見まがうようになっていた。山には相当な強風が吹いているようだ。考えただけでも恐ろしい。レンズを取り替えて何度かシャッターを押す。サウスはみるみるうちにその全身に太陽を浴びて輝きだした。しかしダウラギリはまだ黒く沈んだままだ。アンナプルナ山系の陰になっていて、太陽の洗礼を受けるのは遅い。

やっと山頂にラミッドが輝きます。しかし強烈な雪煙がこちら側に流れていてはつきりとその姿が見えない。やがてゴラパニ峠にも太陽が輝きだすと、荘厳なるドラマは終わりを告げた。

ゴラパニ峠に別れを告げてタトパニに向かってくる。峠の北の下りはパンパンに凍って滑りやすい。周りは峠の直徑が一層

小さく吊橋が見えている。あそこが下りの終点だ。逆巻ごしの急坂を豆粒のような人々が降りていく。私達も最後の頑張りや谷に向かつて一気に下った。

カリガンダキ沿いに街道が通じている。下流に行くとなべの村に出て一日で早カラに行くことができる。私達は上流のタトパニに向かつて歩く。タトパニには温泉があるので、何日ぶりかでお湯に入れると全く足元も軽く元気な歩いた。

タトパニはこのジョムソン街道中一番の賑わいで、レストラン風の食堂や商店・土産物屋が並ぶ。レストランの裏庭のテント屋につくと、早速温泉湯に向かう。Hot Springsの道標に従って川の崖を降り、川原を通ると、一軒の店屋がある。その前に五坪くらいの露天のコンクリート作りの浴槽があって、現地の人や外国人観光客が水着で入っていた。一人3ルピー(約8円)である。特に脱衣箱は無いが、女の人は浴槽の中で着替えをしているらしい。そばに一層壁の無いコンクリートの建物がある。その中で着替えをしてかき入る。少しぬるめだがなかなか気分が良い。洗い場とて無いが、お湯の中で体の汗を拭う。毎日着たっさりのトレッキングだったが、

くらいもあるシャクナゲの林で、花のシーズンにはさぞ見事なことだろう。下るに従って雪が消え、バラバラと民家が現れる。いつしかアンナプルナは山陰に隠れて今度はダウラギリがだんだんとせり上がってくる。その山陰に向かつて幾重にも重なる山腹は深く、深く下ってカリガンダキの谷に落ちる。あんな谷の底に道があるのだから、かため道が出るくらい通かな深い谷である。

雪山を岩肌だらけだと下っていく。周には畑が広がり、のどかな農村風景が点在する。

街道の村の中心には共同の水場があり、子どもがポリタンクを持って水汲みに来たり、洗濯したり体を流したりしている。道にぶらついている牛達も水を飲みにくる。どの村でも水場はよく整備されていた。見知らぬの良い茶店で昼食タイムとなり、露天の木陰で炊事が始まる。今日のメニューは揚げパンにキャベツサラダ・汁のないラーメンにベーコンと紅茶。まずまずの味である。しかし作るのと食事とでけっこう時間がかり、時間も余裕があるので、トレッキングが中断され気分がゆるむ。

とここまででもっとも街道は下っていく。次々と村を通り過ぎて行くと、やがて電柱

今の時期は朝晩の冷えが強い。日中でも10度。湿度が低いので全く汗はかかない。しかし、ほこりはけっこうかかっている。数日ぶりの湯で心身共にくつろいだ。

村のおみやげ屋では娘の赤り込みが激しい。まだ若い娘だったが、言葉の英語と日本語で私達に食らいついて離れない。日本人は金持ちとみられているのか、もっとも私達のグループの人人もよく買う。大した品物も無いのに熱心だ。

大方は現地の土産の日用品を置いているのだが、中の一隅に本棚があり、古本を置いていた。日本語の小説が数冊置かれてい



新煙を上げるダウラギリ

近畿の山 — 七賢出版 —

東海自然歩道	30選	【関西】	1,400円
京阪神	さわやかハイ	ハイク	1,400円
京阪神	ベストハイ	ハイ	1,500円
京阪神	花	花	1,500円
京阪神	ベストハイ	ハイ	1,500円
京阪神	ベストハイ	ハイ	1,500円
近畿の山	グレイ	グレイ	1,500円

〒530 大阪市北区西天満4-15 10FエニックスタワーB15F
TEL 06-345-5433 FAX 06-345-1772

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電鉄 京福
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

- 近鉄**
- ▽万歩ハイキング・歴史街道を行く・シリーズ大和十三歴巡拝「最終回長門寺・雲山寺・矢野寺」3月3日(日)御用中止(集合奈良公園)
 - ▽東大改札前30分(コース)高麗駅(バス)長門寺(徒歩)若菜(徒歩)生まれ守り本陣(バス)雲山寺(徒歩)松尾寺(徒歩)平群(約13.5)金銭無料(送料)一か寺400円とバス代大人840円、小人330円は別途)参加自由、上本町車庫06(775)3566
 - ▽ウィークデーハイク・歴史街道花の道(うめ)「なるかわ園地から牧園梅林」3月8日(日)御用中止(集合奈良公園北改札前15時)
 - ▽コース「石切駅・石切梅林なるかわ園地」神津線・牧園梅林・牧園駅(約14.5)へ費集料、参加自由、上本町車庫06(775)3566
 - ▽文学散歩・歴史街道を行く・巻物の巻子たちシリーズ最終回「早稲穂子の巻」3月10日(日)御用中止(集合大阪府堺区神宮前駅中央
 - 改札前10時(コース) 橿原神宮前駅(バス)石舞宮前(大武・神統)天武(東明)神皇(高宮)天室(藤原)山(約8.5)全費300円(バス代別途)講師(大阪成蹊女子短期大学教授)岡田俊彦氏、参加自由、天王寺車庫06(661)0362
 - ▽ほのほのツアー・梅林巡り「広葉樹林と賢名生梅林と遊歩道」3月10日(日)御用中止(集合あべの橋駅東口エレベーターセンター7時50分(コース)あべの橋駅(特急)下市口駅(バス)広葉樹林(バス)西野温泉(バス)賢名生梅林(バス)かき(バス)賢名生梅林(バス)かき(バス)下市口駅(特急)あべの橋駅(特急)金庫06(661)0362
 - ▽関西近郊科学研究会「近分梅林の遊覧」3月10日(日)御用中止(集合奈良公園北改札前10時)
 - ▽コース「光臨前駅(バス)若草台」追分梅林「子生の森」家の合(約6.5)参加自由(費集料)金庫06(661)0362
 - ▽大阪府山陽道歴史文化センター06(324)0000

大阪府山陽道歴史文化センター

グライムセント・トレイルを歩く
 第22回大阪府チャレンジ

期日 4月14日(日) 西大改札前
 集合 本町町立総合スポーツセンター(若狭中大阪線)上ノ下(下車徒歩30分) 6時50分受付(集合後各自でスタート)

コース 本町町立総合スポーツセンター(若狭中大阪線)上ノ下(下車徒歩30分) 5時開別分・初級) 水曜時 今福山(約14.5)・8時開・中級) 一丁町(約14.5)・8時開・上級)

参加費 2,000円(当日受付・参加者全員に記念品・シャワープレゼント)

装備 ヌック・弁当・水筒・雨具・非常食・ライト・替え上着・ゴミ袋など

※要所の地図をポイントで、参加者の間に合わせ)

大阪府山陽道歴史文化センターの係まで
 06(324)3330

た。日がとつぷりと暮れていっせいに電灯が灯る。時間遅電らしいが電灯の下での夕食は久しぶり。先刻走り回っていた鶏が食糧をにぎわす。外人のトレッカーたちもあちこちでビールを傾けていた。両側から山の迫った狭い空には、寒そうに星が降っていた。今日は1000坪の下りであった。

(7日)朝6時30分起床。カリガンタキのV字形の谷の奥に雪のニルギリが蒸気らしい姿を見せる。朝食をしている間にポーター達が次々と出発して行く。食事が済むと私達も軽い体換をして体をほくし後を追う。

カリガンタキの渓谷沿いの村々を通り抜ける。ひよこ・組鳥・牛・山羊、そして子どもたち。家は木造だが壁は削り石が積まれている。白ペンキが塗られている。ちょっとニキソチックな雰囲気から山羊が顔を出したりする。一階は家畜が入っているらしい。家には広い石畳の庭があり、しばしばロバ隊の一群が休んでいた。街道筋の家は道沿いに石の屏が作られていて、その外側が台になっていて、道行く人々が気軽に荷を置いて休めるようになっている。

また大きな木の陰にも石の台があり、私達もしばしばお世話になった。古い街道では子どもが走り回り、ロバ隊が行き交い、ヤクがたむろする。本当にのんびりした風景で、日本でも江戸時代はかくありなると思わされた。

右手の斜面に三段の大滝が現れる。沢では粉を挽く水車が古しそうな音を立てている。途中、水力発電所もあった。

滝を眺めて朝食となる。ポテトサラダ・ナン・スープ料理は変わりばえなく少し鼻についてきた。しかし今日食欲旺盛で、私も手が出ないわけでもない。さすがに山に來る人達はタフだ。

谷がだんだんと狭くなり道も急となる。崩れた崖道を山のような荷を担いだ人々が行く。こちらは歩くだけでも苦しいのになんどののくらしい重さなのだろう。チベットのらしい一家が歩いて行く。老人・女・子どもも皆荷を担いでいて、父親らしい男が背負った荷物の上に二歳くらいの子どもを乗せている。女の荷の上には尻を縛られた娘がおとなしくゆられていた。

谷はまるで黒部のような崖下伏となり、道は崖を削って続く。やがて橋を渡ると今日泊まり場のガサの村が現れた。とある

ロッジのテント場に入る。寒くて仕方がない。私たちは暗くなるまでラム酒片手に小さいストープにかじりついていた。ロッジ泊まりの外国人の女の子も例外でなかった。次々と外国人のソロのトレッカーがやって来る。谷間のガサは目当たりも悪く、寒くて陰気な村だった。

ポーターがなかなかやって来ず、夕食が遅くなる。テントや食料運びの彼らは、私たちよりも早く出発して行くのに到着が遅い。もっとも重い荷を担いでいるので大変だが、彼らも職業ならもう少し頑張っただけ。それにひきかえキッチンポーターは元気だ。食事の後片づけを済ませてから、重たいコンロ台やストープを担いで、みんな私たちを追いかけて、食事場で準備を始めていた。以前エレベートのトレッキングの際のポーターはもっとしっかりしていた。これはリーダーの力にもよるらしい。

(次号につづく)

新ハイ特別企画

大站機山植物探訪の旅
(一般・後脚向き)
期日 7月13日・21日
8泊9日
コース 成田⇌上海⇌成都
(泊)⇌臥龍⇌(泊)⇌日隆⇌(泊)⇌老牛園子⇌(3泊)⇌大站機山及び高山植物探訪⇌日隆⇌臥龍⇌(泊)⇌成都⇌(泊)⇌上海⇌成田
費用 約31万円
申込み 7339大宮市宮原町4の87の1
三朝生雄(係)へ
4月30日まで
申込み時には後日詳細を連絡します。老牛園子では大站機山(5025)の登山(後脚)と植物探訪ツアー(一般)に別れます。申込み時に登山か花探訪かを明記して下さい。

岩一泊級探訪(1)桐生(バス) 茨城駅
費用 約2000円(入館料を別) 2万5千円(桐生・三雲) ②茨元一泊 〇山崎 申込み 7536大宮市東区東目4の14の9の90 塚元 まで
定員20名(初心者歓迎) *2月20日まで
近江平野の展望が明け、三上山・可成山などの山頂同定を歩きます。指定の地形図とシルバ型コンパス持参のこと。雨天中止

京野北山歩道41 (一般向き) 大夏尾根から小野谷峠
期日 3月10日(日) 日帰り
集合 京野地下鉄北太路駅バス
コース 北太路駅(バス) 花背峠 大見原峠 滝谷山 〇山崎 申込み 7536大宮市東区東目4の14の9の90 塚元 まで
費用 約3000円(交通費別) 〇山崎 申込み 7536大宮市東区東目4の14の9の90 塚元 まで

申込み 761001城陽市寺田大群10の10 村田まで 城陽の足根を歩くと、途中からヤブの足根をこいで小野谷峠へ出ます。尾根からの展望が長し。小雨決行
平口木塚ハイイク19 (初級向き) 金輪寺から半田山
期日 3月14日(休) 日帰り
集合 J R池田駅 徒歩10分
コース 池田駅(バス) 宮川⇌金輪寺⇌半田山⇌千ヶ畑口(バス) 池田駅(解散)
費用 保険代50円(交通費別) 〇山崎 申込み 761001城陽市寺田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで
山頂からの展望は絶大です。金輪寺の五重の石塔は国指定の重文。コースは3時間、健康で山好きの人ならこなすまでも歩けます。雨天中止

南勢・樺越山 (健脚向き) 期日 3月17日(日) 日帰り
集合 伊勢道場和多気インターを出て国道22号線を約18分
申込み 761001城陽市寺田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで
費用 約3000円(交通費別) 〇山崎 申込み 761001城陽市寺田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで

丹生山系・鴨川谷 (一般向き) 期日 3月17日(日) 日帰り
集合 J R福知山線三田駅バス
のりば9時30分(神戸電鉄利用の人は神鉄新開地駅改札前8時10分)
コース J R三田駅(バス) 原風 辻バス停⇌鴨川谷湖行⇌志久津合⇌村山⇌柏尾台⇌山口⇌神鉄其谷駅(解散)(バス) 三田駅
費用 約3000円(大阪から) 2万5千円(大宮から) 〇山崎 申込み 761001城陽市寺田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで

御池川林道から 雑沓の御池南端(健脚向き) 期日 3月31日(日) 日帰り
集合 御池川林道の小又谷林道 分岐点集合時
コース 小又谷林道⇌ノクノ坂⇌土倉岳⇌御池南端⇌南岸⇌奥ノ平⇌丸山⇌ボクンブチ⇌ナホの尾根⇌御池川林道
費用 保険代50円(交通費別) 〇山崎 申込み 761001城陽市寺田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで
申込み 761001城陽市寺田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで

田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで
早春の御池谷を歩きます。神戸では最後の秘境といわれているコースです。小雨決行

港水平谷林道から雑沓の御池南端(一般・健脚向き) 期日 3月30日(日) 日帰り
集合 大宮原・かもしか荘前8時集合
コース かもしか荘前(重) 白倉谷林道の清水位分岐⇌清水ノ頭⇌雨ヶ丘(分岐)⇌保険代50円(交通費別) 〇山崎 申込み 761001城陽市寺田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで
*マイカー山行に際しては、残雪の御池谷から雨ヶ丘に登ります(26号・49ページ参照)。雨天中止

合目一遊(八合目) 一期寺道⇌西原原駅
費用 保険代50円(交通費別) 〇山崎 申込み 761001城陽市寺田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで

大峰・大山山からセト山 (一般向き) 期日 3月24日(日) 日帰り
集合 近鉄八木駅 徒歩10分
コース 八木駅(バス) 五條(バス) 〇天正⇌大日山⇌出原⇌数野⇌山石区⇌セト山⇌合井峠⇌上瀬寄(タクシ)⇌J R橋本駅(解散)
費用 保険代50円(交通費別) 〇山崎 申込み 761001城陽市寺田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで

定員20名(全員に限る) 天徳社の古戦場大倉から集落を抜け、大日山で展望を楽しみ、いったん山頂まで下り、また登り奈良・和歌山の県境尾根を縦走します。若干ヤブあり。念のため軽アイゼン持参。雨天中止

御池川林道から 雑沓の御池南端(健脚向き) 期日 3月31日(日) 日帰り
集合 御池川林道の小又谷林道 分岐点集合時
コース 小又谷林道⇌ノクノ坂⇌土倉岳⇌御池南端⇌南岸⇌奥ノ平⇌丸山⇌ボクンブチ⇌ナホの尾根⇌御池川林道
費用 保険代50円(交通費別) 〇山崎 申込み 761001城陽市寺田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで
申込み 761001城陽市寺田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで

関西山脈の古蹟を歩く1 十三峠 (小さな旅の会合同) 期日 3月31日(日) 日帰り
集合 近鉄信貴線龍田川駅10時
コース 龍田川駅前⇌龍田⇌辻堂⇌石仏⇌水谷地蔵⇌大原堂⇌十三峠⇌十三塚⇌地蔵寺⇌福道湖⇌近鉄龍田川駅(解散)

御池川林道から 雑沓の御池南端(健脚向き) 期日 3月31日(日) 日帰り
集合 御池川林道の小又谷林道 分岐点集合時
コース 小又谷林道⇌ノクノ坂⇌土倉岳⇌御池南端⇌南岸⇌奥ノ平⇌丸山⇌ボクンブチ⇌ナホの尾根⇌御池川林道
費用 保険代50円(交通費別) 〇山崎 申込み 761001城陽市寺田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで
申込み 761001城陽市寺田大群10の10 新ハイキ ンク関西まで

仙山(新ルート)ー最高峰ー西面尾根ー今垣入谷
費用 保険代50円(交通費含む)
地図 明文社「村越仙・中吹・藤原」
係 ①岩野 明
申込み 千610001城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西で
キマイカー山行に阪急フクジエノウが咲きわたる高尾・西南尾根新ルート多(1)21号・44ページ参照。雨天中止

実生・大洞山と三多気の桜
(一般向き)
期日 4月7日(日) 日帰り
集合 近鉄大阪線大塚駅9時
コース 大塚駅(バス)→大塚生→オオクワー大洞山→桂原平→三多気キャンプ場→杉平(バス)→大塚駅
費用 約4000円(大阪まで)
地図 昭文社「55赤目・皇御尊高原」
係 ①村田昭彦 ②山本義治
申込み 千610001城陽市寺田大群10の10 村田まで
大洞山から三多気の桜まで杉平に下ります。小雨決行

平日水環ハイック
出発から山崎まで(一般向き)
期日 4月10日(日) 日帰り
集合 高槻駅北口バスのりば
コース 高槻駅(バス) 出火一本
ポン山→釈迦堂→榎谷→天王山→山崎まで(花見・解散15時30分) 山崎駅
費用 保険代50円(交通費含む)
地図 昭文社「49京都西山」
係 ①湯浅次男 ②岡田 昇
申込み 千610001城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
最初の登りと途中の谷下り以外はのんびりと歩けます。桜の見頃はうまく合いますように。小雨決行

三田・千丈寺山 (一般向き)
期日 4月14日(日) 日帰り
集合 JR福知山線三田駅前バスのりば9時30分
コース 三田駅(タクシー)北浦→神社→千丈寺山→榎上青野(バス)三田駅
費用 約3000円(大阪まで)
地図 2万5千1鹿野

井上 保 ○今津吉司
申込み 千674明石市大久保町高丘3の1・20の原井上まで
ほとんど登る人のいない静かな山です。少しヤブこぎがあります。落ち着いた山歩きが楽しめます。小雨決行

大峰・難言峰から法刀峠
(中級向き)
期日 4月14日(日) 日帰り
集合 近鉄吉野線下市駅9時10分
コース 下市口駅(バス) 難言峰登山口→難言峰→ススキの原→難言峰→法刀峠→河川(タクシー)下市口駅(解散)
費用 保険代50円(交通費含む)
地図 2万5千1鹿野・赤山・河川
明文社「56大峰山脈」
係 ①榎本勇作 ②塚元一彦
申込み 千545大阪市阿倍野区西田辺町1の1の7 榎本まで
定員20名(会費に限る)
ススキの原からの展望は圧巻。ヤブこぎは併せて参加下さい。歩

高野三山 (一般向き)
期日 4月21日(日) 日帰り
集合 南海高野線松尾駅改札口9時10分(難言峰7時30分まで)
コース 難言峰→女人堂→松尾公園→松尾山→大谷川→

行5時間 雨天中止
平日水環ハイック
比叡の道(難走)
坂本から大塚(やや一般向き)
期日 4月15日(日) 日帰り
集合 JR北摂山本駅8時
コース 北摂山本駅→無助寺登山口→養立山→榎木中堂→大比叡→玉杉形→水井山→仰木峠→大尾山→音無ノ池→大原バスターミナル(解散17時頃)
費用 保険代50円(交通費含む)
地図 昭文社「47京北山」
係 ①前中 毅
申込み 千610001城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
好景の比叡山系を全山縦走する。コースタイムは7時間強(11号・82ページ参照)。雨天中止

榎尾山ー摩尼山ー美ノ院
1千手院(バス停)解散
費用 約2500円(大阪まで)
地図 2万5千1鹿野山
係 ①奥村誠治
申込み 千648橋本市城山10の39の7 奥村まで
標高1000m以上、新緑の高野三山を歩きます。小雨決行

文学歴史散歩
石上神宮から大和神社へ
(一般向き)
期日 4月21日(日) 日帰り
集合 JR・近鉄天理駅前9時
コース 天理駅→天理教教本部→布留の池→石上神宮→内山永久寺跡→夜野神社→竹ノ内屋敷集落→堂生→大和神社→天理教教団跡地→藤の樹→曲淵→神一→大和駅
費用 約1500円(近鉄難波駅→交通費・保険代)
地図 2万5千1大和郡山・桜井
係 ①松永忠一
申込み 千580001松原市岡2の2の22 松永まで
神々と古墳と遺業とを石上に彩る

美濃・舟伏山 (一般向き)
期日 4月28日(日) 日帰り
集合 岐阜県山鹿町美濃町遊園地9時
コース あいの森駐車場→さくら峠→みのわ平→舟伏山→小舟伏→あいの森駐車場
費用 保険代50円(交通費含む)
地図 2万5千1谷合
係 ①寛井孝康
申込み 千504各務原市藤原村雨町1の19の5 寛井まで
*マイカー山行に限る
香の花蕾庫の舟伏山フラワートレッキング(本誌14ページ参照)。雨天決行

幻の塔・御金明神へ
(一般向き)
期日 4月28日(日) 日帰り
集合 国道42号台線・神崎橋
広場8時
コース 神崎橋→鏡子ヶ口登山口→鏡子ヶ口東峰→北谷尻谷→谷尻谷山台→御金明神(住居)
申込み 千580001松原市岡2の2の22 松永まで

京都北山歩き42
山森から須中山 (一般向き)
期日 4月29日(日) 日帰り
集合 京都市八条口近鉄改札口7時30分
コース 京都駅(バス) 山森→上谷林道→下小屋ヶ谷林道→終点→峰→須中山(在野)
費用 約4000円(バス代)
地図 明文社「48京北山」
係 ①村田昭彦 ②奥比呂美
申込み 千610001城陽市寺田大群10の10 村田まで
定員40名(会費に限る)
須中山への岩丹尾縦走はすでに

タイヤキンドトレール踏破
二上山から横尾山(中級向き)
期日 5月3日(日) 5日(日) 2泊3日
集合 近鉄大塚駅→上神止口駅9時
コース 上神止口→二上山→大和葛城山(池)→大和葛城山→金剛山→紀伊峠(池)→5日 紀伊峠→吉備山→洗畑ダム→横尾山(バス)→南海桑太津駅
費用 約20000円(宿泊代・バス代)
地図 昭文社「52葛城・二上山」
係 ①5日 紀伊峠→吉備山→洗畑ダム→横尾山(バス)→南海桑太津駅
申込み 千610001城陽市寺田大群10の10 村田まで
定員40名(会費に限る)
タイヤキンドトレールを完踏破します。挑戦してみてください。雨天決行

京都北山歩き42
山森から須中山 (一般向き)
期日 4月29日(日) 日帰り
集合 京都市八条口近鉄改札口7時30分
コース 京都駅(バス) 山森→上谷林道→下小屋ヶ谷林道→終点→峰→須中山(在野)
費用 約4000円(バス代)
地図 明文社「48京北山」
係 ①村田昭彦 ②奥比呂美
申込み 千610001城陽市寺田大群10の10 村田まで
定員40名(会費に限る)
須中山への岩丹尾縦走はすでに

高野三山 (一般向き)
期日 4月21日(日) 日帰り
集合 南海高野線松尾駅改札口9時10分(難言峰7時30分まで)
コース 難言峰→女人堂→松尾公園→松尾山→大谷川→

タイヤキンドトレール踏破
二上山から横尾山(中級向き)
期日 5月3日(日) 5日(日) 2泊3日
集合 近鉄大塚駅→上神止口駅9時
コース 上神止口→二上山→大和葛城山(池)→大和葛城山→金剛山→紀伊峠(池)→5日 紀伊峠→吉備山→洗畑ダム→横尾山(バス)→南海桑太津駅
費用 約20000円(宿泊代・バス代)
地図 昭文社「52葛城・二上山」
係 ①5日 紀伊峠→吉備山→洗畑ダム→横尾山(バス)→南海桑太津駅
申込み 千610001城陽市寺田大群10の10 村田まで
定員40名(会費に限る)
タイヤキンドトレールを完踏破します。挑戦してみてください。雨天決行

多宝塔12・00(集合)12・45(空
峰ノ峰12・50(集合)13・00(一
峯宗明神社14・40(50)湯原谷
バス停15・10(バス)京阪宇治駅
15・40(解散)

「関西山行の会」と合同山行で、
計13名が初歩やかに歩いた。冬
晴れに恵まれ、終盤が良かった。
(参加者)高橋洋治 佐古田文子
入江武史 木村相恵 松尾敏一
三浦弘幸 池 知浩 池 れい子
南 亨子 真田明子 佐田次男
山科邦彦 上坂延枝 木島久治郎
加藤彦彦 辻 貞子 浅田俊男
中川光雄 高岡勇 辻 滋郎
中村美雄 大井 洋 井藤正昭
岡 嘉子 手 幸子 和田直樹
木村 晃 家人敏光 家人智子
岡原定夫 本嶋 修 中森精雅
今津吉司 深坂 寛 深坂昌子
奥村誠治 宮村孝次郎

●村田智俊 (計38名)
美濃・鳩吹山から権左山
12月3日(日) 晴れ
名鉄可児川駅9・30(集合)1大
橋登山口9・45(鳩吹山10・25
(大橋止)1西山休館前11・35(昼
食)1権左山14・10(大橋止)

●新田智俊 (計38名)
美濃・鳩吹山から権左山
12月3日(日) 晴れ
名鉄可児川駅9・30(集合)1大
橋登山口9・45(鳩吹山10・25
(大橋止)1西山休館前11・35(昼
食)1権左山14・10(大橋止)

寂光院14・50(名鉄大津遊園駅
15・30(解散)
愛知の奥山(岡崎) 岐阜の各務
原から3人が初めて顔を合わせ、
歩きました。これも新ハイの良
いところでしょうか。小春日和の鳩
吹山の見晴らしは格別でした。
(参加者)朝倉利一(山)あま子
●鷲見守康 (計3名)

新ハイキングクラブ関西
12月10日(日) 晴れ
JR石山駅北口8・30(集合)40
(バス)上岡9・00(15)徳岡ヶ
岳10・15(21)徳岡原11・00(1
天神山河原11・40(集合)12・15(1
登山13・00(1)徳岡ヶ岳13・40(1
徳岡不動14・20(1)天神山河原15
17・20(徳岡山16・30(バス)10
1アルプス登山口16・30(バス)10
石山駅17・00(解散)

冬晴れの一日、風もなく湿度も
よくて、最高の日溜りハイキングだ
った。遠く伊吹山は真っ白だった。
忘年会も広い河原でおいしい肉を
食べて、大満足だった。
(参加者)木島芳雄 新田孝子
横田智恵 前田幸子 安田文彦 江
近藤 恭 高橋洋治 渡野野守子

冬晴れの一日、風もなく湿度も
よくて、最高の日溜りハイキングだ
った。遠く伊吹山は真っ白だった。
忘年会も広い河原でおいしい肉を
食べて、大満足だった。
(参加者)木島芳雄 新田孝子
横田智恵 前田幸子 安田文彦 江
近藤 恭 高橋洋治 渡野野守子

小林 稔 木村相恵 入江武史
森川信之 小田潤子 中村相合
三宅 明 河野東彦 今西光男
竹田利夫 高野房雄 久保川順一
吉田成宏 加藤元彦 木村里美
下村啓子 日高史緒 堀 久子
川田啓子 高松雅子 木島博子
川田龍治 辻 幸子 駒 嘉子
血原直男 下西 純 渡辺千恵子
若木敏二 小林 昇 宮本真幸
石田豊美 川人郷子 深坂 寛
深坂昌子 古川時子 水口紀美代
阿部邦彦 杉村安代 宮村孝次郎
市川智子 高橋洋治 高橋由紀子
木村 晃 大木政夫 中上紀代子
永井哲男 青木一雄 上坂延枝
増田 隆 田中貞子 岡崎なつ乃
古田 善弘 奥村誠治 野野 明
○江 義弘 ○西田 寛
○中西行司 ○奥比呂美
○高橋 寛 ○村田智俊(計47名)

南鈴鹿・高嶺山
12月17日(日) 小雪のち晴れ
京都駅八条口7・30(集合)40
(バス)鈴鹿時9・10(15)鈴鹿
9・20(30)ナイフェンジ10・30(1
高嶺山11・10(集合)12・00(鈴
鹿)

南鈴鹿・高嶺山
12月17日(日) 小雪のち晴れ
京都駅八条口7・30(集合)40
(バス)鈴鹿時9・10(15)鈴鹿
9・20(30)ナイフェンジ10・30(1
高嶺山11・10(集合)12・00(鈴
鹿)

千山12・20(坂下峠12・40(50)
参道13・30(大原ダムキャンプ
場14・30(15)00(バス)京都駅
16・40(解散)
小宮の無う原道歩いた。昼
すぎには晴れ間もあったが、高嶺
山からの眺望はなかった。
(参加者)福本芳雄 竹田善美
森川信之 松田文子 佐古田文子
築山信夫 山田文子 渡野野守子
栗崎克子 野野東彦 佐藤一
中山博史 杉山 敏 三浦弘幸
山科邦彦 今西光男 竹田利夫
村上敏子 林 輝明 高橋元男
兼松弘子 川崎敏子 森澤道子
森澤道子 山崎英治 山崎多喜子
宮本真幸 尾比裕美 宮村孝次郎
前中 敏 岡田 昇 岡田忠彦子
平政孝子 眞田久子 東 直美
藤井隆雄 高橋元彦 高橋洋治
岡田誠美 高橋明美 木島フジ子
今津吉司 加藤元彦 安田文彦 江
多喜子 多喜子 熊本秀雄
本山博子 宮崎孝彦 中村和子
松井徳水 的場和子 井林孝彦子
川崎龍治 美村孝治 美村三枝
高橋三 林 弘毅 堀 久子
栗崎 寛 渡野野守子 ○上村 謙
○新田智俊 (計63名)

新ハイキングクラブ関西
12月25日(日) 晴れ
南海美之駅9・20(集合)30(平
井時9・55(10)06(花本町地10
・40(45)丸立山11・25(30)八
王子道分岐12・10(集合)13・00(1
大福山13・25(30)須石山13・40
(50)1井岡峠14・25(35)JR大
太谷駅15・45(解散)

冬枯れの尾根道を気持ちのよい
ピッチで歩け、いい汗をかいた。
降りた道で腐葉・流石・花などの
買い物を楽しんだ。
(参加者)西田 寛 大島久治郎
今村 眞 尾野正弘 佐藤孝一
中村龍夫 小林 昇 木全正秀
村上善代 眞田明子 野野東彦
眞田久子 北山 武 布施清美
岡田真介 三木忠子 千原千枝子
山本 敏 池田隆一 木村 晃
小山潤子 栗原明子 井藤正昭
中村啓香 明和成行 横井基子
松井徳水 青木一雄 中川信彦
岡定保夫 堀 久子 美村孝治
○高橋 寛 ○奥比呂美 (計63名)

冬枯れの尾根道を気持ちのよい
ピッチで歩け、いい汗をかいた。
降りた道で腐葉・流石・花などの
買い物を楽しんだ。
(参加者)西田 寛 大島久治郎
今村 眞 尾野正弘 佐藤孝一
中村龍夫 小林 昇 木全正秀
村上善代 眞田明子 野野東彦
眞田久子 北山 武 布施清美
岡田真介 三木忠子 千原千枝子
山本 敏 池田隆一 木村 晃
小山潤子 栗原明子 井藤正昭
中村啓香 明和成行 横井基子
松井徳水 青木一雄 中川信彦
岡定保夫 堀 久子 美村孝治
○高橋 寛 ○奥比呂美 (計63名)

紀泉・札立山から須石山

12月25日(日) 晴れ
南海美之駅9・20(集合)30(平
井時9・55(10)06(花本町地10
・40(45)丸立山11・25(30)八
王子道分岐12・10(集合)13・00(1
大福山13・25(30)須石山13・40
(50)1井岡峠14・25(35)JR大
太谷駅15・45(解散)

冬枯れの尾根道を気持ちのよい
ピッチで歩け、いい汗をかいた。
降りた道で腐葉・流石・花などの
買い物を楽しんだ。
(参加者)西田 寛 大島久治郎
今村 眞 尾野正弘 佐藤孝一
中村龍夫 小林 昇 木全正秀
村上善代 眞田明子 野野東彦
眞田久子 北山 武 布施清美
岡田真介 三木忠子 千原千枝子
山本 敏 池田隆一 木村 晃
小山潤子 栗原明子 井藤正昭
中村啓香 明和成行 横井基子
松井徳水 青木一雄 中川信彦
岡定保夫 堀 久子 美村孝治
○高橋 寛 ○奥比呂美 (計63名)

新ハイキングクラブ関西

12月25日(日) 晴れ
南海美之駅9・20(集合)30(平
井時9・55(10)06(花本町地10
・40(45)丸立山11・25(30)八
王子道分岐12・10(集合)13・00(1
大福山13・25(30)須石山13・40
(50)1井岡峠14・25(35)JR大
太谷駅15・45(解散)

冬枯れの尾根道を気持ちのよい
ピッチで歩け、いい汗をかいた。
降りた道で腐葉・流石・花などの
買い物を楽しんだ。
(参加者)西田 寛 大島久治郎
今村 眞 尾野正弘 佐藤孝一
中村龍夫 小林 昇 木全正秀
村上善代 眞田明子 野野東彦
眞田久子 北山 武 布施清美
岡田真介 三木忠子 千原千枝子
山本 敏 池田隆一 木村 晃
小山潤子 栗原明子 井藤正昭
中村啓香 明和成行 横井基子
松井徳水 青木一雄 中川信彦
岡定保夫 堀 久子 美村孝治
○高橋 寛 ○奥比呂美 (計63名)

新ハイキングクラブ関西

12月25日(日) 晴れ
南海美之駅9・20(集合)30(平
井時9・55(10)06(花本町地10
・40(45)丸立山11・25(30)八
王子道分岐12・10(集合)13・00(1
大福山13・25(30)須石山13・40
(50)1井岡峠14・25(35)JR大
太谷駅15・45(解散)

冬枯れの尾根道を気持ちのよい
ピッチで歩け、いい汗をかいた。
降りた道で腐葉・流石・花などの
買い物を楽しんだ。
(参加者)西田 寛 大島久治郎
今村 眞 尾野正弘 佐藤孝一
中村龍夫 小林 昇 木全正秀
村上善代 眞田明子 野野東彦
眞田久子 北山 武 布施清美
岡田真介 三木忠子 千原千枝子
山本 敏 池田隆一 木村 晃
小山潤子 栗原明子 井藤正昭
中村啓香 明和成行 横井基子
松井徳水 青木一雄 中川信彦
岡定保夫 堀 久子 美村孝治
○高橋 寛 ○奥比呂美 (計63名)

新ハイキングクラブ関西

12月25日(日) 晴れ
南海美之駅9・20(集合)30(平
井時9・55(10)06(花本町地10
・40(45)丸立山11・25(30)八
王子道分岐12・10(集合)13・00(1
大福山13・25(30)須石山13・40
(50)1井岡峠14・25(35)JR大
太谷駅15・45(解散)

冬枯れの尾根道を気持ちのよい
ピッチで歩け、いい汗をかいた。
降りた道で腐葉・流石・花などの
買い物を楽しんだ。
(参加者)西田 寛 大島久治郎
今村 眞 尾野正弘 佐藤孝一
中村龍夫 小林 昇 木全正秀
村上善代 眞田明子 野野東彦
眞田久子 北山 武 布施清美
岡田真介 三木忠子 千原千枝子
山本 敏 池田隆一 木村 晃
小山潤子 栗原明子 井藤正昭
中村啓香 明和成行 横井基子
松井徳水 青木一雄 中川信彦
岡定保夫 堀 久子 美村孝治
○高橋 寛 ○奥比呂美 (計63名)

毎号お求めにになりたい方へ
前もって書店に電話ほしい
と「購読予約」をされますと、
どこの書店でもお買い求めい
ただけます。購読月の20日(土
曜月)の発売です。